第２回 第４次門真市学校適正配置審議会　議事録

開催日時　令和元年６月３日（月）　午後２時～午後５時10分

開催場所　市役所本館２階　大会議室

出 席 者　横山俊祐、浦嶋敏之、西孝一郎、吉岡眞知子、松﨑淳子、村上香織、後藤忠夫、日置芳太郎、上村梨恵、加藤諭、濱﨑恵子、国吉孝、上甲尚、明智威久、清水玉美

事 務 局　満永教育部長、西口管理監、中野教育部次長兼教育総務課長、三村総括参事、渡辺教育総務課参事、峯松学校教育課長、髙山学校教育課参事、植原学校教育課参事、東谷教育総務課長補佐、宮﨑教育総務課長補佐、前馬教育総務課副参事、柳瀬学校教育課長補佐、松本学校教育課副参事、永田教育総務課主任、長教育総務課主任

傍 聴 者　４名

議　　事

〇開催

事務局

定刻となりましたので、第２回門真市学校適正配置審議会を開催いたします。

本日はご多忙にも関わりませず、ご出席いただき誠にありがとうございます。本日司会を務めます、教育部次長の中野でございます。

よろしくお願いいたします。

本日は、委員16名中15名がご出席されており、門真市附属機関に関する条例の施行に関する門真市教育委員会規則第５条２項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

本日は、大田委員はご都合がつかず、欠席となっております。

なお、後日議事録を作成するため、会議を録音させていただいております。ご発言に際しては、お手元のマイクのボタンを押していただきますようお願い申し上げます。

次に、お手元の資料の確認をしたいと思います。
まず、１点目　会議次第。２点目　審議会委員名簿。３点目　資料１　第1回審議会の振り返り・主なポイント。４点目　資料２　今後の審議会のスケジュールと進め方（案）。５点目　資料３　門真の教育の現状について。６点目　資料４　門真市教育振興基本計画と門真市魅力ある教育づくり審議会答申。最後に７点目　資料５　門真市の教育に大切なもの。となっております。すべて資料そろってございますでしょうか。それでは、おそろいのようですので、進めさせていただきます。

会議に先立ちまして、学校・幼稚園の人事異動により委員の交代がありましたので、ご紹介させていただきます。

教頭会の代表といたしまして、明智　威久　様です。

委員
第四中学校教頭の明智と申します。どうぞよろしくお願いします。

事務局
園長会の代表といたしまして、清水　玉美　様です。

委員
砂子みなみこども園長の清水と申します。どうぞよろしくお願いします。

事務局
それでは、以降の進行は、会長にお願いしたいと思います。会長よろしくおねがいいたします。

会長
よろしくお願いします。本日は暑い中、お集まりいただきありがとうございます。それでは早速ですが、議事次第に従いまして進行を進めさせていただきます。
まず、第１の議題ですが、前回の振り返り・確認ということで事務局より説明をお願いします。資料としては、資料１をお願いします。

事務局
資料１をご覧ください。

本日は第２回の審議会でございますが、第１回の会議から少し時間が空いており、新たな委員にも入っていただいていますので、第１回会議でまとめられた内容について、少し振り返りをしたいと考えております。

第１回会議では、今後この学校適正配置審議会を進めるうえで、重要な考え方やポイントについて整理がされましたので、まず、第１回の会議を振り返ることで、再度審議会の位置付けについてご確認いただきたいと思います。

まず、資料の１ページをごらんください。

これは、教育長から本審議会会長あての諮問内容の抜粋であります。

市立小・中学校の適正配置・適正規模についてと題しまして、

１、門真市学校適正配置審議会第３次答申における提言の再検討について

２、「小中一貫校」、「義務教育学校」等の考え方も含めた、今後の小・中学校のあり方について

この２点につきまして、審議会の意見を求められています。最終的には、これに呼応する形で、この審議会の意見を返すこととなります。

次に２ページをご覧ください。

次に、審議会の意義についてです。

なぜ今、学校の適正配置を議論するのか、新たな小・中学校のあり方を検討する必要があるのかという視点です。

第１回では、今学校が変わらないといけない時期にある。門真として、学校をどのように創り変えていくかが問われているのではないかということでした。

その理由として、

１点目が、学校施設の問題として、多くの学校で老朽化が進んでおり、児童・生徒の安全をどのように確保していくのかという視点。２点目が、少子高齢化により、子どもが減っている現状があります。各学校の学級数が減少している中での、より良い学校とはどういうものかを考える必要があります。３点目が、学習指導要領の改訂など、学校に求められる教育内容や機能が時代とともに変化しているということです。

ＩＣＴの活用や英語教育、プログラミング教育など、授業内容の変化に加えて、教室に座って先生の話を受動的に聞くだけではなく、主体的・対話的な学びを実現していくためには、学校施設として求められる機能や環境も変化しています。

昭和40年代～50年代の人口急増期に一気に建設された現在の学校は、同時に老朽化も進んでいます。財政上すべての学校を一律に新築していくことは困難であり、限られた予算の中で、どのように良い学校にしていくか. そのような視点で、適正配置や学校再編、小中一貫教育についても議論していく必要があるの

ではないかという議論がなされました。

次に裏面をごらんください。この審議会の役割についてです。

１つ目は、第３次適正配置審議会の答申内容の再検討の場です。２つ目は、先ほどもあったとおり、これからの学校をどのように創っていくかを検討する場です。この中では、子どもの数が減っているから統合するというということだけではなく、「財政面」「魅力的な学校施設づくり」「教育の中身」「地域との関係」「小中一貫教育」も含めたいろんな見方で考えていくことが必要であると言及されました。

３つ目は、昨年度まで開催されました門真市魅力ある教育づくり審議会で出された答申については、「尊重」しつつ、我々も良い学校づくりをめざすために、さらに議論することとしましょうという形でまとめられております。

最後に、４ページです。

諮問の中で、小中一貫校も含めた学校のあり方についてという内容がありました。この内容について、小中一貫というのはそれ自体が目的ではなく、あくまで一つの手法である。

小中一貫教育とはどういうことか。これまで門真市が取り組んできた小中一貫教育とはどういうものか。今門真で求められていることは何か。

そういったものをこの審議会でも、しっかりと共有したうえで、学校のあり方についても考えましょうという議論がなされております。

それらも含めまして、第２回以降の審議会については、今後の会議全体を通してどの時期にどのようなことを議論して決めていくのかといった全体フローを作成して、今後の流れを共有したいということで締めくくられています。

これら第１回に議論された内容を踏まえたうえで、案件２以降を本日の議題として進めてまいりたいと考えております。

案件１については以上でございます。

会長

はい、ありがとうございました。前回の議論の振り返りをしていただきましたが、これについて、ここは良いとか、言ったことが反映されていないとかありましたら、自由にご発言いただきたいと思います。

この審議会は何のためにあるのかといった審議会の意義や役割については皆様で検討していただいて、ご理解いただいていると思います。審議会の名前は適正配置ということで、学校の統廃合が前面に出ているようなものになっており

ますけれども、実は重要なのは、ここに書いてありますように、門真の学校をこれからどう創っていくのか。そこのところだと思います。その中で学校の数とか位置とかをどうするのか、規模をどう考えるのかというのを、学校づくりの一つの課題として位置付けていくというのがこの審議会の役割だと理解しています。

そういう意味で、学校を創るの「つくる」が人編の「作る」ではなくて、創造の「創る」になっているのは、事務局センスいいなと思いますが、この創るで臨むということですが、このことについていかがですか。事務局から何か補足があれば。

事務局

第１回審議会の内容を踏まえますと、これからの学校をどう創っていくのかということに焦点が当たっていると考えています。その意味で、統合、再編という言葉もありますけれども、そうではなくて、門真としては新しい学校を創造する、創るんだという審議会にしたいと思っています。

会長

何かご意見ございませんか。

それでは、ご確認いただいたということで、次に行きたいと思います。

２つ目の議題になりますが、資料２に基づいて、今後のスケジュールと審議会進め方について事務局からの説明をお願いします。

事務局

資料２は、今後の審議会のスケジュールと進め方の案を事務局で作成したものでございます。

この審議会は概ね２月までを予定しております。本日が第２回となっており、令和２年２月の第８回審議会において答申を出せるよう審議を進めていくことを考えております。

まず、全体の流れといたしましては、会議の前半におきまして、左側の流れになりますが、門真市のめざす教育の方向性についての共有と議論を行い、また、学校施設としてのこれからのあり方について審議していきたいと考えております。後半では、右側の流れに移りまして、学校施設の老朽化や子どもの減少などを含め、門真市の６中学校区ごとに、現状を踏まえた今後の学校の適正配置の議論を進め、最終的には、第７回～第８回にかけて、今後の学校のあり方と適正配置の議論の両方を総合的にまとめた意見として、答申へつなげたいと考えております。

少し細かくみていきますと、本日は全体の流れを確認したのち、門真市の教育

目標や、魅力ある教育づくり審議会の答申内容を共有したうえでの学校施設のあり方、今後の学校づくり、また、小中一貫教育の推進について、様々な意見を出していただきたいと考えております。

第３回では、先進的に新しい学校づくりに取り組まれている市へ、皆さんと視察へ行ったうえで、新しい学校づくりの視点やこれから求められる学校の機能について、議論したいと考えております。

特に第２回、第３回では、委員皆様のそれぞれのお立場や、ご知見なども含め、様々な視点からご意見をいただく場と考えておりますので、ぜひ多様な意見を出していただければと思います。

第４回では、第２回、第３回の議論を踏まえ、一定の整理を行うとともに、これらを具現化していく上での門真市としての学校のあり方について、さらに議論を深めていきたいと考えております。合わせて、適正配置の議論に入るにあたって、基礎資料を基に、門真の学校の現状について共有したいと考えております。

第５回、第６回では、中学校区ごとに、適正配置の視点から具体的な議論を進めてまいりたいと考えております。第７回では、前半の議論と中学校区ごとの適正配置の議論を合わせ、答申素案を作成してより議論を深めたいと考えております。ここでの議論を反映し、第８回において、この審議会としての最終的な答申案をまとめてまいりたいと考えております。

今後のスケジュールと進め方については以上でございます。

会長

ありがとうございました。このようなスケジュールで進めていくということです。大きく２本柱があって、ひとつは、教育の方向性の議論と書かれていますが、先ほどありましたように、門真の学校をどう創るのか、そのこれからの方向性について議論していくというのが左側のまとまりでございます。適正配置の議論というのは、これが目標になるのではなくて、やっぱり門真の学校をこれからどうしていくかを考えるときの一つの方法として議論するテーマではないかと位置付けて、進めていきたい。

なので、皆様方に一番議論していただきたいのは、これから門真の学校をどうしていくのか、そこのところで自由に意見を言っていただいていいと思います。その中で、学校の規模や数についても検討すべき課題として出てきますので、この適正配置の項目の中で検討していくということになります。それが、全体の大きな役割であります。

そうは言いながらも、検討最初は考えるネタも持っていないので、今日いきなり学校の未来について議論するよりも、まずは、教育委員会でどのような議論がなされてきたのか、あるいはどのような現状なのかといった基本のところを、皆

さんで少し理解をしたうえで、そのまま進めていくのか、ちょっと軌道修正するのかといった後ほどの議論に入っていきますので、まずは、少し現状を勉強して、勉強が進んだ段階で議論を進めたいと思います。本日は、教育委員会や公的な立場の方々がこれまで考えられてきたこと、課題について話を聞いて、議論の基にしたいと思いますがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

とにかくこの場は自由に発言していただきたいということ、それと、審議会という名前になっていますが、我々は役所のお抱えでは何でもないので、なんでもかんでも言うことを聞くということではなくて、軌道修正は大いにあっていいと思います。その中で、当初に答申された案がいいということになれば、それで構わないと思いますが、提示されたものをＯＫする場ではなくて、活発に議論していただいて、ベストな方法を皆さんと考えていく場にしたいと思います。

事務局が前に座っておられますが、必ずしもあっちの言うとおりに議論が進むということはないと、逆に言えば、そうはしたくないと思っていますので、いずれ戦う時が来ると思いますので、その時に備えて力をつけていきましょうということです。そういうことで、全体のスケジュール、プログラムはこのように進むということで、皆さんご理解いただけたということでよろしいでしょうか

委員（各委員）

結構です。

会長

それでは、次にいきたいと思います。

資料３、資料４の説明ですが、ここからは少し勉強会というスタイルになるかもしれません。案件３の門真の教育がめざす姿と学校施設のあり方について、まずは事務局から説明をお願いします。

事務局

失礼いたします。

それでは、最初に門真の教育の現状ということで、少しデータを基にお話をさせていただこうと思っています。いろいろなデータがあるのですが、国や府のデータであったり、市が独自で持っているデータであったり、いくつかのデータの中から特徴的と思われるものをピックアップして説明いたします。審議会での検討の参考になればと思っております。よろしくお願いします。

まず、学力についてです。お手元にも資料はありますが、前のスライドにはカラーで折れ線グラフが表示されています。このグラフは、全国学力学習状況調査、学テと言われるものですが、小学校のものであります。パッと見た感じ横ばいと

いう感じです。30年度は各教科少し上がっていて良かったという状況ですけれども、全国平均は上の赤い線のところで、ここにはまだ届いてはおりません。見ていただきますとどちらかと言えば、国語に課題が見られます。一番上の緑色は算数Ａですが、こちらは全国平均まであと少しというところまできました。32年度以降は、小学校では外国語、つまり英語ですが、学習指導要領の改訂という大きな変化があります。理科については、毎年あるわけではないですが、表のとおりの結果となっています。

続きまして中学校です。右上がりになっています。10年前に比べると少しずつですけども上昇を続けておりますが、全国平均には届いておりません。先ほどの小学校もそうですが、数学Ａが一番良いという状況です。小学校・中学校ともに科目にもよりますが、大阪府は全国で中位から下位にいる状況ですので、その中でも門真市は下位の方にあるというのが現実です。しんどい状況にあると言えると思います。それでも、10年前と比べると、国平均に対し５ポイント以上、上昇してきているという状況となっています。

続きまして、生活指導面でのデータになります。この不登校の問題は、市の大きな課題であると考えております。青いグラフが中学生、白いグラフが小学生となっています。中学校の数値は29年から若干減少してきました。児童生徒の全体数が減少している中でもありますので、単純には喜べるものではないかとは思いますが、減ってきています。小学校にも1年間に30日以上欠席となる長欠児童もいるのですが、その理由は病気や親の都合のケースも多いですので、不登校と認定しにくい場合もありました。ただし、最近は中学校の生徒指導の考え方が小学校にも入ってきて、少し認知数が増えてきたところがあります。

次に、不登校をもう少しわかりやすいグラフにしてみました。こちらは中学校の国府と比較したものになります。青いグラフが門真市であります。赤が大阪府、緑が国の数値です。このようにみると国や府に比べると不登校の数は多いことが分かりますが、これも国府では微増ですが、門真市では、29年から若干減っているというのが現実であります。

もう一点生活指導のデータで暴力行為についてです。数年前まではいわゆる荒れが非常に厳しくて、その対応に現場の教師は非常に疲弊していました。近年中学校での暴力行為の発生件数は減少傾向にあります。もちろん子どもたちの変化ということもありますが、一方では本市全体として進めてきた開発的生徒指導の成果もあったものと分析しております。開発的生徒指導というのは、すべての子どもたちの自己実現をめざした生徒指導で、これまでの対処的な生徒指導とは違って、受容と傾聴、子どもたちとしっかり向き合うということを基本に据えた生徒指導のスタイルであります。減少して喜ばしいところではありますが、一方でラインやＳＮＳでの子ども同士の誹謗中傷やいじめ、引きこもり、出

会い系の利用など、この何年か社会が大きく変化してきた中で、子どもたちの生活形態も随分変わってきた部分もあると思います。

次に運動能力についてご覧ください。

門真の子どもたちの運動能力をどう捉えておられるでしょうか。これは全国規模で行われる運動能力・運動習慣の調査です。青が男子、オレンジが女子です。男女で分けていることはご了承ください。対象は小学校５年生と中学校２年生です。まずは小学校５年生の平成30年度のデータです。Ａのほうは運動ができる子、Ｅに行くにつれて、どちらかというと運動が苦手な子というふうになります。国府と比べますとＡの割合が少ない状況になっています。逆にＥを見ますと国府よりも門真の割合は高めになっている。小学校５年生を見ると運動は苦手なのかなということが言えるんじゃないかなと思います。これはあくまで５年生だけの結果ですので、全体では違う傾向になるかもしれません。これが小学校の結果です。

続きまして中学校２年生も対象となっていますので、挙げてみました。こちらも、Ａのほうは運動ができる子、Ｅのほうがどちらかというと運動が苦手な子、上が男子、下が女子です。こちらを見ていただきますと、Ａでは国府と非常に近いというのがわかります。さらにＢを見ると、国府と同じか、女子では、少し多くなっています。逆に先ほど小学校では門真の割合が高かったＥについては、国府と同じくらいに収まっているということが言えるのではないでしょうか。中学校では、部活をやっている子も多くいますが、ここは全国と比べて大きく落ち込んでいるといったことはないと考えております。

雑多なデータでしたが、以上です。他にも外国にルーツを持つ子が多くいるとか、子どもたちの家庭状況、友達関係など、様々な要因が絡んでいます。その中での大きな傾向としての門真のデータです。当然結果の分析や効果の要因を探ることは重要ですが、子どもたちが元気に学べる学校環境づくりの参考データとしていただければと思いますのでよろしくお願いします。私からは以上です。

会長

それでは、続けて資料４お願いします。このような門真市の実態に対して、どのような目標を設定して、どのように対応しようとしているかといったことについてです。

事務局

続きまして、資料４をご覧ください。

先ほどは、門真の状況を具体的なデータを使ってご説明しましたが、今度は、門真が今進めている計画がどのようなものかということと門真市魅力ある教育

づくり審議会の答申の内容について少しご紹介させていただきたいと思います。
　先ほど会長からもありましたとおり、門真市ではこの方向で進めるので皆さんよろしくということではなく、これから進めていただく議論の参考になればということでご紹介させていただく趣旨ですので、これに捕らわれずたくさんの意見を出していただければと思います。

　それでは１ページをご覧ください。こちらは、門真市教育振興基本計画を抜粋したものです。
　これは名前の通り、本市の教育に係る基本計画でありまして、この中で、
　基本理念を、「子どもの夢と幸せをみんなではぐくむ門真の教育」としておりまして、基本目標として、基本目標１　０歳からの１５年一貫教育で子どもの夢と幸せをはぐくみます、基本目標２　多様な学びの機会を実現する充実した教育環境をつくります、基本目標３　子どもを真ん中に学校、家庭、地域、行政がつながります、こういった３つの目標に基づいて現在、進めているところです。
　次に資料の下をご覧ください。次の２ページでは、政策の方向と実施施策ということで、それぞれの基本目標に対し、取り組んでいく内容について、その方向性を具体的に記載しています。
　この内容については、一冊の冊子として作成された内容すべてを含みますので、すべてを説明することはできませんが、ハード面、ソフト面含め、学校のあり方に直結する内容や、キーワードがたくさん出てきますし、今後の議論の中でも、この計画に基づきお話しさせていただくことが出てくると思いますので、今回は、ご紹介にとどめさせていただきます。
　続きまして、「門真市魅力ある教育づくり審議会の審議内容と答申内容」についてです。「門真市魅力ある教育づくり審議会」は平成28年11月から平成30年８月まで、概ね２年かけて開催されました審議会です。審議内容としては、先ほどの教育振興基本計画の中で、特に重点的に取り組むべき喫緊の課題と解決策の審議について、また、それに加えまして、下線にありますように、長期的な視野に立って今後本市の学校が一層魅力ある学校として、子どもや保護者の目に映るよう、具体的な施策としての審議を行うというものとなっています。
　この審議会の中でも、学校のあり方に関わる内容について、様々な意見を頂いておりますので、具体的な答申の内容について少しご紹介させていただきます。
　この「門真市魅力ある教育づくり審議会」では大きく５つの提言がなされています。先ほどのデータにあったような内容に対する提言もありますが、本日は、特に学校のあり方に関連する部分についてご紹介したいと考えております。そういう意味で、提言１と提言２に、学校環境や学校施設など学校のあり方について、主に取り上げられているところです。

まず、提言のひとつ目、横のつながりや縦のつながりなど、多様な人間関係の構築をとおして主体的に学び合える学校環境づくりについてという提言の中では、学習指導要領の改訂を受けて、今後子どもたちが「主体的・対話的で深い学び」を行えるような学校環境づくり、また、多様な価値観に出会い、違いを認め合いながら学び合える環境づくりが必要であるとされています。

また、全学年１クラスの学校や１学年の人数が少なくなっている学校が出てきており、少子化に伴う今後の課題も挙げられるとともに、児童・生徒にとっても、教職員にとっても、横のつながりや縦のつながりをもとに、多様な人間との豊かなつながりを構築しながら、教育活動が行えるような教育環境を作ることが重要であるとまとめられております。

そして、その中で、その実現に向けて、早急に今後の門真市全体の学校のあり方を検討していくことを求めますと提言され、これが、この審議会で議論していただく大きな柱になっています。

さらには、小中一貫教育についても触れられています。多様な人間関係の構築による「小中の円滑な接続」を考え、２小１中体制というコンセプトで小中一貫教育を推進してきたが、子どもの減少や学校間の物理的な距離を一つの課題として、これまでのコンセプトを変更し、より有効な小中一貫教育を考えていくことが重要である。具体的には、小中一貫教育をより円滑に行えるよう、現状に即した新たな流れをつくることも重要であるとまとめられております。その中では、「小中一貫校」「義務教育学校」等の考えも含めた学校施設のあり方を検討していくことを求めます。という提言になっておりまして、これもまた、この審議会で議論する部分でもあります。

次に提言の２つ目にあたります、すべての子どもにとって安全で優しく、充実した学校施設のあり方についてという部分です。資料は、提言内容を分割しただけのものです。すべてが一つの文章になっているのが本来の答申であります。

このページでは主に課題に当たる部分をまとめられた内容になっています。門真市の学校は、現在、耐震工事は行っているものの、築40 年を迎えた学校は、老朽化している校舎が多い。「主体的で対話的な授業展開」への対応や、英語教育・ＩＣＴ機器への対応等、柔軟かつ効果的な授業展開などに資するような環境と言えない状況。学校環境になじめない子どもたちの気持ちを落ち着かせたり、面談したりする際に使用できる落ち着いた雰囲気の部屋や、学級だけでなく学年全体や異年齢集団など大勢の子どもたちが集えるような部屋も不十分な状況。最後に、本年６月18日に発生した大阪北部地震では、改めて学校施設の安全性について警鐘が鳴らされた。などの学校施設についての現状に対し意見が述べられました。これを踏まえて、次のページへ移りますが、学校施設のあり方についても様々な意見が出されたところであります。

たくさんありますので、すべて読み上げることはしませんが、左上部分では、学校施設として、多目的ルームやパーテーションで区切られた部屋、ＩＣＴ機器が整備された部屋など、行内に多種多様な空間を設置することの必要性について述べられています。左下部分では、様々な子どもたちがいる中で、どのような子どもでも居場所がある授業や、教室、学習環境があるという視点の重要性、右側に移りますと、新しく衛生的で、どの子にも優しく、安全安心で防災機能も兼ね備えた学校施設を作っていく方向性を打ち出すことの必要性、この中では校舎が古いということ、子どもたちがトイレに行けないというようなことも含めて学校施設の今後の方向性を打ち出すことの必要性といった内容になっています。

最後に、社会に開かれた学校や地域との連携の有効性、子どもたちと地域住民とが適度な距離感を保ちながら交流できる、こういった地域と学校との関係性についても言及されています。

門真市魅力ある審議会審議会で議論された内容は、本審議会の内容と非常に近いところもありますが、これらを参考にさらに皆様のご意見を頂きまして、門真の学校づくりにどのような視点が必要なのかについて検討を深めていきたいと考えております。長くなりましたが以上でございます。

会長

ありがとうございました。

前半では門真の教育の現状ということで、学力、不登校、それから体力というご説明をいただきました。いずれも伸びしろはまだまだあるということで、これからの取組でこの伸びしろをどうしていくのか、この辺が一つ見えてきたところかと思います。

今説明いただいた内容について、ご意見、何か補足するようなものでも構いませんし、違う視点でも構いません、あるいは実態はこうなっているというご紹介もいいですが、まずは、学校現場におられる先生方いかがでしょうか。

委員

小学校ですが、今の状況そのものだと思います。本校では以前はどの学校も２学級だったのが、現在３つの学年で１学級という状況です。その弊害として学年があがってもクラスは変わらない、同じメンバーで上がっていく、もし学級になじめない子が出た場合に対応が困難だという状況と言えます。

また気づいたことがあれば発言させていただきます。

会長
　中学校はどうですか。

委員
　中学校現場ですが、学力、不登校、暴力行為といったところでは数値に出ているとおりだと思いながら聞いていました。暴力行為で行くと、ここ５、６年でどの中学校も落ち着いたと思います。校内で暴れるとか、子ども同士で喧嘩するとかほとんどいませんので、授業も落ち着いて静かにできているという状況です。授業中歩きまわったり、先生と揉めたりというのはほとんどないと思います。一時期のやんちゃやった雰囲気はなくなってきたと思います。学力については、中学校の悩みとして、小学校から中学校に上がってくるときにどうしても上位層が私学に抜けるので、その子たちをちょっとでも公立の中学校に魅力を感じてきてもらうような姿勢もいるのではないかと思います。
　不登校については相変わらずかなと思います。これについてもデータのとおりかなという実感はあります。子ども、保護者の中にも、学校に行かなくてもいいじゃないっていう一種の考え方みたいなのがあって、一時期は学校に行かないことに罪悪感もあって、教師も躍起になって登校刺激を与えていたところでしたが、そういう不登校は減ってきていて、行かなくてよいというのが普通というのが増えてきているのかなと気もします。一番困るのは連絡がつかない、電話に出ない、訪問しても出ないというのがありまして、これは各学校とも少しあるようです。
　運動能力については、門真の中学校では部活は活発にやっていて、頑張っている子が多いと思います。ただ、部活については、市からも指針が出ましたので、沿うような形でやっていく必要がありますので、今後はこのデータもどのようになっていくのかなと思っています。勉強嫌いやけど、部活、運動は好きという子もいますので、そのあたり、運動は活き活きとやっている感じがデータにも出ているのかなと思っています。

委員
　失礼します。４月に他市から来ましたので詳細は分かっていない部分もありますが、先ほどの校長先生の意見のとおり私も感じています。ただ、ここにはデータ化されていませんけども、本校ではとても人懐っこく、子どもらしくて可愛いなという子がたくさん居ますので、その辺りは全国平均以上かなと勝手に思っていますけども、家庭の背景とか、しんどい状況の中で頑張っている子もいます。私たちも、子どもたちが高めあっていける環境をつくっていかないといけないと校長とも話をしているところですけれども、生徒数も減ってきております。

私は他市から来ていますので、中学の歴史を知らないといけないと思って、昔のアルバムを見ているんですけども、こんなに減っているんだということを非常に感じています。なので私たちも努力して魅力ある学校づくりをしていかないと、子どもたちも離れていき、それは教師も悲しいですし、地域の方もいろんな思いを持たれると思いますので、そのような中で、勉強していきたいですし、分かる範囲で意見も言いながら議論していきたいと思っています。本当にいい子たちばっかりで楽しく過ごさせていただいています。以上です。

会長

これは学校の責任とかそういうことではなくて、今こういう状況だということは、学校でも認識されていて、要はこういう結果をどう評価してどう対処していくかということになると思うのですが、市民や地域の皆様から見て、実際こういうデータを見ての感想や評価というのはどうでしょうか。

委員

私は、大和田小学校区、２中校区になります。微力ながら学校の評議員も10年以上やらせていただきました。先生方のご苦労は並大抵ではないです。どんどん良くはなってきていますが、学校の先生が言っても駄目だけど地域の人が言ったら聞くということもあるんです。そういう意味で学校と住民と役所とそれぞれの考えでやっていけばいいと思いますが、私も来年80歳になりますが、門真の子どもが大好きなんです。青育協もやっていますが、人間関係を大切に、継続は力なり、という私の好きな２本柱で、生きている限り青少年のために頑張りたいと思っていますので、皆さんとともに門真の青少年の育成に努めたいと考えています。以上です。

会長

やんちゃな中学生でもおっちゃんの意見は聞くものですか。

委員

私が怖いからかもしれませんね。

会長

委員だからということもあるのかもしれませんね。

委員
　子どもたちから挨拶もしてくれます。
　私が男前だからですかね。

会長
　地域にそういう大人がいるっていうのが大事なんじゃないですかね

委員
　地域ぐるみでやってあげないと。共働きの家なんかは、鍵っこで子どもだけでいるおうちもありますからね。民生委員さんの意見なども聞きながら、地域ぐるみでがんばらないといけないと考えています。

会長
　他、学校の先生の前で言いにくいかもしれませんが、そういう場ですので。市民の皆さんどうでしょうか。

委員
　人懐っこくて、子どもらしくて、のびやかなところは私も学校をお伺いするときに思います。あともう一つは、小学校から中学校へあがるときの私立へ行くということですけども、私の子どもは公立の中学校でお世話になりましたが、私の周りでも、私立の小学校や中学校へ行くと成人式の時に、ここが地元じゃないと感じる寂しさがあるという話をよく聞くので、ぜひ中学校も公立でと思うような学校ができるといいなと思いながら聞いていました。

会長
　私立に抜けるのは、門真だけじゃなくて全国どこでもあります。都市部では半分くらい私立に行くというところもありますから、案外エクスキューズにはならないかもしれないですけど、やっぱり公立でちゃんとやっていけるというのが基本だと思いますので、充実させるというのは大切なことだと思います。

委員
　質問というか、不登校のところで、最近中学校では減ってきたということですが、小学校が増えてきているように見えます。例えば小学校で不登校だった子が中学校へ行くケースもあると思います。そこに新たに中学校から不登校になる子が加わるというのがこの数字かなと思いました。この中学校は減った一方で小学校が増えているところのほうが、気になるところで、どう考えるかという点。

同じように暴力行為のデータも中学校では減ってきて、自己実現による指導の成果かなというお話もありましたが、中学校の件数が減ってきたからよいという意識ではなくて小学校では増えつつあるというあたりは、中学校の課題が下に降りてきたのかどうかとか気になりましたし、小中一貫で教育を考えるというところでは非常に大事な視点かと思いました。

学力のところで、上位層が私立へ抜けてしまうという話もありましたが、これはどこでもあることかなとおもいます。このデータは学力テストの結果ですが、学力をもう少し大きくどう捉えるか、公立では、科目の平均点だけを重要視しているわけじゃないというあたりをしっかりと出していかないと、この数字だけを見て学力の話をして、上位層が私立へ行くからという捉え方ではなくて、人格形成や生きる力を公立で育んでいる部分を十分やっておられると思うので、そこをしっかりと出していかないと市民の教育への理解というのが難しいのではないかということを思いました。

あとは不登校についてですが、私の地元でも、最近の保護者の中には勉強は塾でいいからとか、学校へ行かなくてもよいというような声もあるというのを聞きながら、これは全国的に言えるところかと思うのですが、子どもたちが学校へ行きたくないという要因がどこにあるのかというのをもう少し知りたいなと思います。学校へ行きたくないのか、行けないのか、行かないのか、そのあたりの要因がもう少しわかってくると学校づくりを考えるうえで、非常に参考になるのではないかと思いますし、建物の中で、子どもの居場所づくりとかいろいろと考えておられる部分もあるので、その要因をしっかりと分析しておく必要があるかなという気がしました。

会長

小学校の不登校の背景には何があるのかというご質問ですね。

委員

気になったなというだけです。

会長

確かに増えていますね。

委員

確かに増えています。先ほど発言された言葉の中に、低年齢化というのがありましたけども、一昔前に比べて子どもたちの情報ツールが下の年齢に降りてきている気がします。スマホなどもそうで、外で遊ぶよりも家で友達とも話ができ

る。顔を見ずに文字でやり取りするわけですから誤解を招くなど、友達づくり・仲間づくりが下手になっている気がします。

それから、学校行きたくないという話もありましたが、ごく一部ですが、トイレが汚いから学校でトイレできない。だから学校へ行きたくないという子どももいます。そういうところは改善することでそういった子どもを減らすことができるというのは事実だと思います。あと、学校へ行かなくてもよいという保護者も何人かおられます。そうなるとなかなか登校を促すことが難しいということもあります。

また、医者でも同じように、子どもが言っているから学校が無理に引っ張っていく必要はないよ、家におらせてあげたら結構です、というケースもあります。その原因ですが様々だと思います。お友達関係で悩んでいるケースもありますので、本当に子どもが奥に秘めているものを出させるような状況を作らないと解決にはなかなかつながらないのではないかなと思います。

それから病気といいますか、起立性調節障がいで朝なかなか起きられないというケースも過去にありました。この辺は医者と連携することで少しずつ改善できると思います。また朝は弱いけど昼前には調子が戻ってくるという子であれば、途中からでもいいからね、という声掛けをすることで、遅れてでも登校していたという例もあります。個々様々だと思いますので、学校としましては、すぐに改善というわけにはいかないですが、できることからやっているという状況です。

委員

不登校の子どものことは、私は興味があって研究の一つでもあるのですが、先ほど原因は様々あるとおっしゃっていましたが、やはり直接的な原因が学校にあるのではなくて、家庭環境の中の不安などがあって、それを引きずりながら学校に来れないというようなこともあると思います。私としては、そのあたり、子どもたちが置かれている立場を学校の教員がより理解することで、何か突破口を見いだせないかと思っているので、その要因というところが気になるところなんです。特に小学校の場合は、学校の勉強が分からないとかいうことではなくて、家庭の環境が大きな要因となっていることもあるようなので。

委員

そう言っていただけるとありがたい部分もありまして、その部分は切り出せないところでもありました。本校でも事例としてあるのは、お母さんが夜働かれていて朝が遅い。それで子どもも寝ているという場合は、我々が迎えに行って、学校へ連れていくこともありますし、ある子は朝ごはんがないのです。せめて給

食を食べれば栄養の足しにもなるかと思って学校へ連れてくることもあります。なかなか話として切り出しにくい部分もありまして、ありがとうございます。

会長
　その中で、小学校の不登校がこの３年で増えているのは何かありますか。

委員
　私自身はその状況というか原因については分からないです。本校ではそこまで増えていないです。学校規模にもよるかと思いますが。

会長
　数の数え方が変わってきたということもありますか。

事務局
　先ほどのスライドでも若干触れましたが、ご指摘のあったように小学校の問題行動が府内でも増えている、中学校では落ち着いてきたけども、小学校では、不登校も含めて増えてきているというのは大阪府内全体で言われています。小中一貫教育を進めていく中で、生徒指導という課題も、連携の大きな柱になりえるものです。小学校と中学校で認識が違うと中一ギャップということにもつながりかねないということで、様々連携している中で、どちらかというと小学校の生徒指導の考え方や子どもの問題の判断の仕方について、中学校に近づきつつある傾向にあるかなと思っています。
　その一つとして、不登校の認定について、従来であれば保護者の方から体調が悪いので休みますとか、用事があるので休みますというのを病気欠席、事故欠席と勘定していたのを、それが続いたときには学校として不登校と認定していきましょうという流れが小学校に少しずつ増えていっているのではないかと感じています。

会長
　それは要するに、数の数え方というか基準が変わったということでいいんですよね。実態としては、以前と同じようにカウントしたらこんなには増えない。

事務局
　どちらかというと以前の数え方が正しかったのかどうかということだと思います。

会長
　正しい、正しくないではなくて、以前と同じようにカウントしたらこんなには増えてなかった。

事務局
　そうですね。

会長
　あと、暴力行為ですが、私も子どもの頃喧嘩はありましたけども喧嘩イコール暴力行為になるのですか。小学生の暴力行為ってどんな感じなんですかね。学校の先生に殴りかかったりしないと思うんですが、具体的にどんなことですか。

委員
　時と場合によりますがあります。対教師もあります。器物破損、ガラス破損もあります。これは本校であるという意味ではないです。

会長
　殴り合いのものすごい喧嘩になるんですか。ガラスを割るっていうのは、具体的にどんな暴力行為ですか。

委員
　蹴るとか叩くとかそういうのはあります。

副会長
　かつて、この数字を求めている側にいましたので参考までに。
　実態として全国的に小学校の暴力行為が中学校に追いついている。かといって小学校が今荒れ狂っているわけでもない。何かと言いますと、先ほど説明があったように、小学校の生徒指導のアンテナが高くなっているということです。
　例えば、小学校１年生では、発達の段階にもよりますが、感情をうまく言葉にできないがためについつい手が出てしまうということがあります。昔であれば、１年生やから仕方ないとおいていたんですけども、これをきっちり件数としてあげて、正面からチームでこれに取り組みましょうというのが流れにあります。いじめなんか特にそうですけども、件数としてきちっと挙げて取り組みましょうという流れがあるので、件数が増えている要因になっていると思います。
　もちろん、背景には貧困の問題や経済的事情などいろんなことがあって、小学生にも鬱積したものや矛盾があって、いろんな問題行動につながっているとい

う部分もありますが、一方で、先ほどのように小学校のアンテナの高さが変わってきたというのも要因の一つにあると思います。

会長

小学生の暴力行為は全国的にもこういう状況にあるということですが、国や府と比べた時に、門真の割合が高いというところの背景は何なのでしょうか。

委員

私は一昨年から学校支援という形ではやめていますが、約20数年間ボランティアとして地域で活動してきた中で、子どもは学校に行かなくていいという保護者の話も確かに聞いています。でも、そうじゃないですよ、ＩＴが発達していろんな情報が入ってくるでしょうが、人と面と向かって話すことができなくなる。自分の言い分が通らなければつい手が出るとかあります。その中で、教師とか学校関係者が見てる前ではおとなしいんです。陰でこそっといじめる、そういうのは、そこに地域の人が入り込むことで防げることもあるんです。

地域の人間やからこそ怒れる部分があります。今は教師が大声出しただけで暴力だとか、先生方には非常に厳しい世の中になっていますが、それを助けるのが地域、ボランティアと思っています。一つは青少年指導員という立場もあって20年やってきましたが、中には隠れて悪さする子はいます。私たちが子どもの頃は喧嘩しても素手での殴り合いでした。今は違います。棒や物をもって振り回すという子どもが小学生でもいます。そういう時も地域の人が学校に入ることで解決することもあります。いじめも少なくなると思います。

不登校の件でも、家庭の事情とかいろいろあると思いますが、その地域地域で情報を得ながら、時には学校関係者じゃない我々が出しゃばって、入っていったこともあります。1週間かけて説得したけども駄目だったこともあります。家庭にはいろんな状況があるのでそれ以上は踏み込めませんでしたが、そういうこともあって、改めて、ＰＴＡの皆さんも入っていらっしゃいますし、できれば小学校のうちから学校だけではなくて地域も一緒になって子どもたちを見ていく、地域が目を光らせておく、ちょっとした買い物でも、地域で見守ってやる、こういったことを青少年指導員の立場としても、皆さんにお願いしたい部分でもあります。

現在門真では60名程度しかおらず、動ける範囲もしれています。その中でも月１回は小学校校区でも中学校区でも中学校の教師と一緒にパトロールしています。門真では他市に比べてよくやっているほうですが、最初のころに比べると熱は下がっている気はします。こういった取組を教育のつながりとして広げてい

ったら、子どもの荒れの問題とか不登校の問題の一助にもなるんじゃないかと、皆さんの話を聞きながら思いました。このような観点で、学校がどうなったらいいか、確かに学校のトイレが汚いから、早く治してあげてほしい部分もありますし、こういった審議会としての意見でも出していただけたらと思います。以上です。

会長
　学校に対して地域が関わっていくことが大事だということだと思いますが、実際のところ、学校と地域はどれくらい関わりを持てているんでしょうか。

委員
　校区によって温度差はあると思いますが、私は２中、沖、上野口、大和田ですけども、頑張っていると思います。

会長
　何を頑張っているんですか。見守りといったことですか。

委員
　そうですね。

委員
　小さなことでもいいから地域が学校に入っていく。最近の若い先生は野菜の作り方も田んぼのやり方もわからないし、それでも地域が関わって、自分たちの作ったものを売ったり配ったりということができるんです。

委員
　門真小には負けますが、大和田小でも老人会が一緒になって野菜を作ってやっています。

委員
　それを子どもと一緒にやるといいです。

委員
　なるほど、それは提案として言っておきます。

委員
　サツマイモづくりは子どもたちも一緒に植えたり育てたりしています。

委員
　子ども会のお誘いをすることがあったのですが、自治会も子ども会も入りませんと断られることが多くなってきました。
　この間フリスビーのようなものを当てるドッチボールのような競技をしたんですが、子ども会に入っていないので入れない、子どもがやりたくても、自治会費を払ってないとできないという決まりがあって、何人か遠くから見ているんです。子ども会に入らないのはおうちの都合なんです。役員をやらないといけないなどの親の都合なんです。子どもはやりたいんです。でも、それをいいよと言ってしまうと他の人に示しがつかないのでできないと言われて断ったことがあります。
　そういう保護者の方は、そういう場所に関わりたくないと思っていてコミュニケーションをとれないんです。自治会とか結構いいところもあると思うんですが、幼稚園、小学校に上がった最初からうちは入りませんと言われてしまうと、もう同じ班であったとしても、誰ということもわからない。今は名前や住所を公表してはいけないということも厳しくなったので、近くにいても誰かもわからない、そのような状況でどうやって仲良くなるんだろうと毎回思います。

会長
　保護者がそうやって、関わりを絶ってしまう。

委員
　子どもがかわいそうです。

委員
　校区では体育祭とかありますよね。

委員
　それも子どもは入れないです。

委員
　門真校区では、自治会に入っていなくても体育祭に関しては、関係なく子どもは参加できます。そこはできないんでしょうかね。

委員

景品がつくからだと思います。景品が自治会費から出ているんです。一回走るごとに景品がもらえるのはみなさん知っているので、それだけもらいに来るということが過去にはあったようですが、それはあかんのちゃうってなって、それならば初めから参加できないとしているようです。

委員

私の感覚では、子どもは関係ないですよ。だったら、公のところでは子どもは出してあげましょうよという形でやれば、自治会に入っていなくても子ども会にないっていなくても子ども同士は友達になれますよ。確かに自治会費から出ていますから、全部がＯＫでもなく、お弁当はごめんやでとかいうこともちろんあります。でも親の都合で子どもが参加できない。そこのところは人間の度量としてやっていただけたらなぁと。ただ、我々も大きな行事くらいのはということで、体育祭や納涼会なんかでは参加していただいて、それがまた自治会ではこんな活動をしていますよ、協力してくださいと勧誘するきっかけにもなりますし、学校や地域への関わり方も変わってくるんじゃないかなと思って動いています。そういう部分で、会議の時にでも、考えをちょっとだけ皆さんに理解してもらえるようにやってもらえたらなと、よその地域のことなのでとやかく言うことはできないですけどもね。

そうしていただけたら子どもたちももっと友達もできるんじゃないかなと。友達ができないと引きこもりのようなことになる可能性もあります。門真の中でそういうことにならないようにしていくために、そういった配慮も必要かと思いますし、大災害が起きた時に、あなたのところは入っていないから出しませんとかできないわけです。そういう部分も考えた時に、この審議会からは少し外れるけれども、考えたほうが地域のため、学校のため、子どものためになるのではないかなと思います。

会長

ＰＴＡとしてはどうですか。学校との関わり、そういった加入率というか、一切関わらないという人も増えてきているのではないですか。どんな状況ですか。

委員

ＰＴＡはどうしても今は保護者も働いている人が多いので、なかなか役を引き受けるのが大変だということで加入しないということもあると思いますが、先ほどの話の学力や不登校といったところの原因がどこにあるのかということでいくと、学校現場は子どもたちに学力をつけるためにいろんな取組をされて

いると思います。どちらかといえば、親が自分たちの子どもに対して、学校に対して無関心になってきているんじゃないかと思います。働いているからということだけがＰＴＡに加入しないということでなくて、学校に対する無関心さも原因の一つかなと思ったりします。

仕事をしていてもＰＴＡの活動にも携わろうとしてくださる方もたくさんいらっしゃいますし、ＰＴＡのお願いとしては、学校の中、先生たちがどれだけのことをしているかを見てほしい。見てもらって、保護者が何をできるのかというところを考えてほしいと常々考えていて、門真がどうして大阪府内でもそんなに低いのか、そこも学校が手を抜いているわけでもなく、親自身がそこに目を向けなければ、学校だけでは学力は上がっていかないと思います。

不登校についても、心や体の問題で来れない子や、親の都合で来れない子など様々だと思いますが、親自身が親教育を受ける場というのも、今後子どもたちが発達していく中で必要かなと思っています。

会長

そのあたりは、ＰＴＡとしては具体的に取組をされているんですか。

委員

講演会などはしています。スマホを取り上げてなどの講演会はしましたが、スマホを扱う楽しさは大人も同じで、大人も夢中になってしまって、子どもに注意できない状況であったり、ご飯を食べているときでも、子どもも大人もそれぞれスマホを触っていて親子間での会話もままならなかったり、というのが問題です。子どもが学校のことで悩んでいる、学力のことを悩んでいるということを親が気付けていないというのも大きいかなと思います。

親が負担だからＰＴＡを縮小して、負担を軽減しようということになっているんですけども、私は軽減するというよりもう少しこちらを向いてもらえるような動きをしないと、どんどん保護者間のつながりがなくなり、もっと情報共有ができなくなり孤立していく、ごく近い親だけのつながりで、小さい村社会になってしまって、子どもたちをよい風に育んでいけないと思います。

自分たちと学校がつながりをもって、もっと学校現場に目を向けて、学校で先生方がどれくらいやってくれているかが見えてくればまた違ってくるのかなと思っています。

会長

そういう意味では、親の意識改革というようなことですか。

委員

私もできていないので、偉そうなことは言ってはいけないのですが。

会長

大きく言えばそういうことですよね。

そういう意味では、親と学校とが触れる機会をもっと密に持つ、あるいは、先ほど地域の人が学校に入ってくると成果が上がるというような話もありましたが、地域や親を含めて学校に目を向けるというような仕組みを創っていくというのが重要なんですかね。

他どうでしょうか。

委員

大和田小学校で昨日日曜参観があって、私も見に行ったのですけど、たくさんの保護者の方が来ていて、先生方が一生懸命教えている。そこにちゃんと子どもたちが向かっている。ちゃんと学ぶ方向に向かって、きょろきょろしている子はほとんどいない。そして、それぞれ考えや意見をもって発表している。この子たちは素晴らしいと思いながら見ていました。まとめておられる先生方もちゃんとしておられるので、校長先生からもその辺の指導はされているんでしょうけどもすばらしい。その辺は教育環境としてはできているのかなと思っています。

さっきの資料でも平成29年から平成30年の学力が伸びていると。平成29年に落ちてから先生方ががんばったと。特別何かされたのかと思うのですけど。学校だけで勉強したってみんな個々の能力に違いがありますんで、そこらへんは家に帰って家庭学習。うちの小学校でも去年、一昨年ぐらいから家庭学習をちゃんとやりましょうという紙を撒いていたので、そのあたりは、取り組まれているので、それが連動して伸びてきている要因でもあるのかなあと思います。

なかなか、ひとり親や親の就業時間が遅い時間までとなってくると、子どもと直接的に触れ合う時間が取れない家庭っていうのが出てきているのかなというふうに感じていて、やっぱりそういうところは子どもも親のいないところで好き勝手にしている時間が長くなってしまって、寝る時間も当然遅くなって朝起きられなくなるという負の循環が起きてしまう。親もなかなか子どもに手が廻らない。そういうところが、不登校や学力の低下、そういうところに全部につながるんじゃないかなあと思っています。そういったところを、保護者はしんどいでしょうけども、保護者間のつながりで何とかしましょうよというのが、ＰＴＡの役割でもあるのかなあと思っています。

ＰＴＡには何人か役員がいて、代表者がいて、そういったつながりの中で、学校と相談してこの保護者助けましょうよと、そういうつながりを持てるような、

学校の環境から地域の環境を全部つなげていったら、もうちょっと全体的なサポートができるのかなあというふうには思っています。

会長
　そういうのって結構いいですね。困っている親のサポートっていうのを市域や保護者が連携しながらやっていくという仕組みを作っていくというのは。そういう方はおられるわけですか。

委員
　ちょっとうちの子しんどい子だと、私のところに直接言ってきたお母さんもいました。そんなときは、みんなで見たらいいよという話をするのです。具体的に何をしようかというのは出てこないところではあるのですが、そういう話を聞いた以上、こちらとしては気を付けて見ておいてあげようとか、ちょっとした見方が変わるだけでも変わってくるところもありますんで、ほんのちょっとのことが全部つながっていったら、一人のちからじゃなくてみんなのちからであれば、ちょっとずつでも変わってくるとは思っています。

会長
　ありがとうございます。いかがですか。補足でも別の視点でもいいのですが。

委員
　私も昨日、小学校が日曜参観でした。私は砂子小学校の会長をやっていて、去年の会長さんと引継ぎをしているときに、自分のところの通学路しか見ていなかったので気づかなかったのですが、学校周辺の側溝が、どこの管轄かわからないのですがぜんぜん掃除されてなくて、落ち葉とか泥とかがたまりまくって、それがずっと気になっていました。それを前の会長さんから引継ぎをするときに同じ地域のお母さんなので、あそこ気になるよねって、毎年日曜参観のときに講演会を４時間目に持て来ていたのですが、講演会をしてもいつも参加する親は同じで、先生とかで席を埋めているという感じでしたので、来てくれるのかなというところもあったのですが、思い切ってＰＴＡ主催で先生たちも一緒に親子で掃除を呼びかけてみました。学校も砂が流出してしまっていたようで、とにかく水はけが悪くていつまでもグラウンドが乾かなくて、翌日になっても乾かないので体育に使えないという状況が今まであったので、溝掃除とかをすればちょっとはましになるかもしれないというのを、校長先生と教頭先生と話をすると、やりましょうという話になりました。
　昨日初めてＰＴＡクリーンアップキャンペーンと銘打って実際やるとなった

のですが、講演会のあと、子どもたちはグラウンドに並んで親御さんに出てきてもらうようにしていたんですけど、どれだけの親御さんが残ってくれているかなと思っていましたが、結構いっぱい残ってくれていまして、日曜参観ということもあってお父さんがけっこう参加してくれていました。是非お父さんの力を発揮してくださいとお願いして、あまり長々とするのもあれなので30分程度ぐらいでというので、子どもも一緒にみんなでやりました。でも、子どもはやはり最初だけで、後は遊んでしまっていたので注意しながらやっていました。結果ゴミ袋で50袋ぐらい、すごい量になって、校長先生、教頭先生、先生方からはよかったと、これからもずっと続けていくようにしましょうということになりました。毎年恒例の行事にしていけたらいいねというふうに言ってもらえたので、これまで２年間会長・副会長をやってきましたが、３年目にしてやっとＰＴＡらしいことを学校と一緒にできたなと思ったのでよかったと思っています。

運動会前にはいつも成育協・サッカーや野球・ソフトボールチーム・ＰＴＡとがグラウンドの掃除活動はやっていたのですが、ごく一部のことしかやっていなかったので、ＰＴＡは大掛かりなことを定期的にやっていけたらと思っていて、昨年は災害がいろいろあって、私も出身が種子島なので台風はしょっちゅうのことなので、田舎に比べると大阪は正直、危機管理がなってないなといろいろ被害が出たときには思ったので、そういうところから学校と地域と連携して洪水とかにならないように協力して備えていくようにしなければだめだなと思っています。

委員

地域全体でやっていますか。

門真小学校の場合は約20年になるんやけど、毎年一回小学校の体育祭の前に、各家から校区内全域の町内清掃をして小学校に集まって、それから、各クラブチームとか、どぶ掃除、周囲の草取り、グラウンドの草取りとか、それを各自治会に分けて分担して、約２～３時間かけて毎年やっているんです。今年おたくがそれを始めたのであれば、それを通年通してやっていく仕組みを創っていったら、大いに成育協を使ってください。自分たちの出た学校だから協力してくれるはずですよ。そうでなかったら学校の周りもきれいにならないし、学校がだいぶん汚くなってきているから。校内はちょっとでもきれいにしていったら、子どもたちは楽しいのと違うかなと思います。余計なことを言いましたすみません。

会長

アクティブＰＴＡに変貌していくのはとてもいいなと思いましたが。

だいぶん時間も来ましたので、課題については一応このぐらいにして整理し

たいと思いますが、いま小学校の問題が少し出てきているので、幼保こども園のあたりの状況が今どうなっているのか、それが小学校に影響しているのかどうかというのもあるような気がするのですが、例えば幼保こども園から小学校に上がっていくときに、何か少し問題が出てくるとかそういったことはあるものなのでしょうか。

委員

スマホのことが先ほどからでてくるのですけれども、今、こども園には０歳から５歳までの子どもたちがいるのですけれども、それこそお母さんたちが２歳や３歳からスマホを与えて操作をさせて、動画とかを見せたら暴れているのが止まるのでよく見せている、というのはすごく気になっているところであります。今年度の入園式でも、式の最中に子どもがうるさくするので、スマホを見せていたという家庭もちょっと気になっているところでした。

０歳から入ってくるので、０歳って生まれて初めての経験を園でするし、いろいろな大人との関わりも大切なので、愛着の部分がしっかりしていれば、子どももすごくスムーズに発達していって、人との関わりもすごく楽しくなっていく。そこらへんを大事にやっていかないといけないねと職員と話し合っているのですが、先ほど、こども園は働いているお母さんたちがすごく多くて、ＰＴＡではなく保護者会というかたちでお母さんたちは運営をされているのですけど、その中でも役員にあたるのがすごく嫌だというふう潮がかなりあって、役員にあたってもなかなか集まりも悪いし、集まりの時間も仕事をされているので、夕方の時間に保護者会の会議を設けているのですけれども、なかなか集まってくれないということも聞いているのです。参観日にクラス懇談会があるのですが、その時にそれぞれの年齢における大事なポイントを伝えていかないといけないねという話をしています。

こども園で５歳児の子どもたちは園に来るのがすごく楽しいと言っていて、学校ではないので勉強しているわけではないけれど、楽しい活動をしながら育てることを考えている。小学校に上がったときに行きたくないということになる要因がどこにあるのだろうというのは、私は学校で働いていないので、学校のどこの部分で嫌になるのかを、先ほどから話を聞いていて思うところです。

会長

そういう意味では、小１プロブレムや中一ギャップというのが一般的に言われるのですが、一つの問題として保育園幼稚園から小学校に上がるときにも環境の変化に対応できないという問題があり、小中一貫と同じような考え方で、幼保・こども園と小学校の接続をどうスムーズにしていくのかというのはこれか

らの課題となってくると思います。そういった連携についても考えていく必要があるのではないかと思います。

最後に先生に全部まとめていただきます。今日、どのような議論があって、今後どのような方向に向かっていくのかというところを。

委員

今までの話を聞いていてすごく面白かったのですが、結局のところは、人のつながりの中で子どもを育てるということを皆さんおっしゃっているように思えます。最初に学力の問題が出てきましたよね、でも皆さん人のつながりのなかで子どもを育てたいというふうに思われていて、そのつながりをどう創っていくのかというのが課題ではないかなというふうに思ったのですね。

不登校の問題もありましたけど、学力がつかないということよりも、結局不登校の問題も人とのつながりが切れていくあたりが大きな問題ではないかと思ったのですね。

まとめということですが、小学校の頃に白血病になって、その時に私は教頭で関わり、その後中学校の教頭になり受け入れにも関わったという子どもがいました。その人は看護師になって、自分自身がお世話になった大学病院に勤めていたのですが、体がしんどくなって、今度は社会福祉士の立場から小児がんの患者に関わろうとしています。この子がうちの学生に話をしてくれました。この人のレジュメを見ていて本当にびっくりしたのですが、自分の周りに十いくつかの枝があって、その人たちから私はこういうことを得たとか、こういうものを身につけてきたとか、大学の先生はどうだったとか、十いくつもの人のつながりの中で自分は成長してきたということを意識していました。

ですから、もちろん門真が学力を上げていくことはすごく大きな問題だと思うのですけど、本当に根底にあるのは人とのつながりのほうで、皆さん目もそちらにいっているのかなというふうに思ったのです。「学力は学校で」というふうに切り分ける気はないのですけれども、人のつながりをどうやって創るのかなあというところを考えたほうが良いのかなあと思ったのです。

学力の問題って個の問題、一人ひとりの問題であって、今出ている話は集団の問題なのかなと思ったので、これから先どの方向に行くのかわからないですが、どうやって門真の子どもたちにつながりを創っていくのかということを大切にしたいと思いました。

もうひとつ、お聞きしたかったことがあったのですが、門真の子どもたちって人懐っこさみたいなものは皆さん感じられていますか。どこの学校もそうなのでしょうか。

委員
　そうですね、感じています。少なくとも大和田小学校は人懐っこいと感じる。ほかの学校はわからないが。

委員
　人懐っこいです。

委員
　門真はいいですわ。勉強できなくても人懐こくていいと思う。

委員
　やはり人懐っこいのですね。ひょっとすると、その辺が門真の強さなのかなと考えたりするのですが、人懐っこさを得点化できませんし、数値に表すことはできないのですが、そこらへんにこれからの取組のヒントがあるのかなあとも思います。

会長
　ありがとうございました。ということで、つながりをどう創るかというあたりがひとつの大きな構造的な課題だということで、学力とか問題行動とか体力とかいくつかの指標で、門真は遅れているということになっていますけど、あまりそういうことに一喜一憂して、学力はいらないとは申しませんけど、対症療法だけに陥りたくないなと。だから、こういう問題あるからこうすればいいというような対症療法的にこういった課題を考えていくのではなくて、やはりもうちょっと全体的に考えてく。先におっしゃった、つながりをどう創るかというのは、まさに全体的な発想だと思いますので、そういった中でこれからこの学校をどう創っていくのかということを考えていくというふうに進めたいと思います。
　もう一つ実は案件がありまして、最後になりますけど、つながりの先にある小中一貫の話になるのじゃないかと思いますが、資料の５番を使っていただいて、門真市の教育に大切なものについてご説明をお願いします。

事務局
　失礼します。教育総務課の前馬と申します。私のほうからは門真市の教育に大切なものということで、教育内容の話になってきますが、たくさんお話しいただいた中でもう少しお時間いただきますけれどもお付き合いください。
　冒頭、三村総括参事や渡辺参事の方から、門真の現状や、教育振興基本計画や魅力ある教育づくり審議会で答申された内容についてお話しさせていただきま

したけれども、そういったところも含めたうえで、改めて、今、門真の子どもたちに対して、どういう教育が重要なのかなということを考えさせていただきました。どういう教育活動を実践することが、門真の子どもたちの夢と幸せを育む教育になるのか、先ほど先生の方からお話ありましたけれども、人とのつながりというのをどういうふうに意識していくのか、というところを元に、こちらとしての考えをお話しさせていただきたいと思います。お手元にも資料はあるんですけれども、スライドで少し動いたりする部分もあるので、両方見ながら見ていただきたいと思います。

まず、門真の子どもたちの課題ですけれども、先ほど少しありましたとおり、学力の問題、それから不登校の問題については数値として出ている部分もあると思います。それ以外にも様々あるんですけれども、３つ目として、いわゆる自尊感情の低さ、自己肯定感の低さ、このようなものも課題と言えるのかなと思います。自分にいいところがあると思えるか、自分自身に対して自信があるかというものを表すものになるかなと思います。

こちらは平成28年度に実施された、子どもの生活に関する実態調査において、「自分に自信がある」という項目の肯定的な回答、「ある」とか「どちらかというとある」という回答が、半数以下という数値であって、大阪府の平均に比べても、低くなっているという結果が出ておりました。また、全国学力・学習状況調査、いわゆる全国学テの児童質問紙調査の中にも、「自分に良いところがある」という項目も肯定的な回答が、国や大阪府と比べて低くなっており、子どもたちの自尊感情の低さというものも、門真市における課題ではないかなと感じております。

また、これは主観的な話になるんですけれども、私自身も数年前まで教員として小学校現場で働いていて、子どもの中に自分にいいところもないしな、とか、だれからも頼りにされてないしなというふうに感じている子どもであったりだとか、将来の夢というものを持っていても、途中で、自分の学力的にも難しいなとか、夢っていうのを持てなかったりとかっていう子ども、その結果、自分からいろんなことに主体的に関わっていくということがなかなか苦手で、受け身な子どもっていうのが、全員ではないんですけれども、クラスの中に少なからずいたかなというふうに感じております。

そんな中、門真の子どもたちにどのような力を身に付けさせ、どのように育っていってほしいのかということをしっかり考えていく必要があると思っております。

そこで、育てたい子どもの姿ということで、これまで様々なところで議論されていた中身を少しまとめるような形になるんですけれども、次のようなことが言えるのではないかなと考えております。

まず、自ら進んで主体的に物事に取り組むことができる子ども、続いて、最後まであきらめず挑戦することができる子ども、そして３つ目に、自分の将来を切り拓く力を身に付けることができる子ども、こういう子どもたちを育てていくということが、今、我々、門真市の教育者として取り組んでいくべきことの内容なんじゃないかなと思っております。

では、このような子どもの姿を提示するわけですけれども、では、こんな力をつけた子どもたちを育むためには、どうすればいいのか、目標だけあってもなかなかそれに向かって具体的にどういうことやっていけばいいのかというところがはっきりしないと、なかなか難しい部分もあるかなと思っております。

そんな中で少しヒントになるというか、こういうふうにやっていきたいなというところですけれども、日々子どもたちが学校で国語や算数等を学んでいますが、その学んでいること、学習活動の中で、この内容が自分の将来とここが結びつくんだと考えることができるような授業であったり、教育活動を実践したり、また、自分の興味や関心、それから自分らしさ、そういうことが気づくことができるような取組を学校の教育活動の中に取り入れる、また、自分自身でしっかりと考えたり、選択したり、また、自分で判断できるような場面というのを学校の活動の中に盛り込んでいく必要があるんじゃないかなと思っております。

こういう内容を意識して教育活動を行うことで、先ほど示させていただいた３点の育てたい子どもの姿に近づくんではないかなと考えております。

このように書かせてもらっているんですけれども、実はこのような内容を意識した教育というところで、一般的に教育の話の中では、キャリア教育ということばで呼ばれております。

これまでの話を少しまとめると、門真市としては子どもたちに必要な力を身に付けさせるためには、キャリア教育、これを根底において教育活動を行っていくことが大事なんじゃないかなという点で話を進めさせていただきます。

ただ、今キャリア教育という言葉がポンと出てきましたけれども、初めて聞いたという方もいるかもしれませんし、聞いたことはあるけどよく内容についてはわからない、ちょっとややこしい話そうやなというふうに感じられている方もいるかもしれませんので、少し硬い話になるかもしれないけれども、キャリア教育について少し説明させていただきます。

キャリア教育というのは、一人ひとりの社会的、職業的自立に向け必要な基盤となる能力や態度を育てることをとおして、キャリア発達を促す教育と中教審というところでも言われております。ここでいうキャリア発達ということは、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程、とされています。少し言い換えますと、子どもたちが自らの力で生き方を選択していくことができるように、必要な能力や態度を身に付けるための教育、というこ

とも言えるんじゃないでしょうか。

前はキャリア教育というと職業観であったり、就労観、働くといったようなところについて、少しクローズアップされていたところもあるかなと思うんですけれども、現在はもちろんその部分もあることはあるんですが、子どもたちがこれからどのように生きていくか、どう成長していくかということについても大きな点を置かれておりまして、職業だけに捉われない考え方としてキャリア教育を言われております。

また、新しい学習指導要領の中においても、こちらに書いているように書かれておりまして、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる資質、能力を身に付けていくことができるよう、学校の特別活動を要として、各教科の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ることと総則にも書かれておりまして、キャリア教育の重要性というのが謳われておるところです。

キャリア教育として育む必要のある能力として、大きく４点が挙げられております。人間関係形成や社会形成能力、あいさつ、日々のあいさつやコミュニケーション等もここに含まれてくるかなと思います。また、２番では、自分の夢や自分の性格、個性について考えたり、３番については様々、世の中課題等あると思うんですけれども、それをどう対応していくか、問題解決していくかということ、あと４番は、キャリアプランニング能力ということで、働くことの意義ってどこにあるのかとか、このような能力をキャリア教育を通して育んでいくと言われております。

ここで再度、門真の子どもたちの課題や育てたい子どもの姿、少しもう一度振り返っておくと、先ほどのキャリアの説明のところと少し結びつく部分もあるかなと思うんですけれども、例えば、将来を切り拓く力、自分の夢っていうのをしっかり見つけることだとか、主体的に取り組む、それから自分の良さ、自分にいいところがないわ、ということで自尊感情が低い子どもがいるという現状もあるなかで、自分の良さというのを、しっかり自分を見つめていく、そういうキャリア教育を行うということがいいのではないのかなと考えております。

少し同じ説明の繰り返しになるかなと思うんですけれども、日々の学習の中で自分の将来、これがどう結びつくんかということを考えてみたり、自分の良さ、自分らしさ、自分の好きなこと、自分の得意なことに気づくことができたり、また、それをしっかり伸ばし、自分自身でこうなりたい、こうしてみたい、というふうに考えることができる、このような教育活動であるキャリア教育が今の門真の子どもたちの課題を少しでも解消できる有効な手立てのひとつと言えるのではないでしょうか。

キャリア教育ですけれども、基本的にはもちろん日々の教科学習や、特別活動

の中で、学校の中で行っていく、授業の中で行っていくことですけども、学習面以外でも、遠足や社会見学、また、部活動、それから運動会、文化祭の行事、このような活動の中でも、キャリア発達を促すことが可能です。キャリア教育と聞くと、何か新しい、難しいことをやらないといけないのかといったイメージをお持ちの方もいるかもしれませんが、そういうことではなく、子どもたちがこう育ってほしい、こう育てたい、子どもたち自身がこうなりたいということを意識しながら、様々な場面で考えることができるもので、特別な何か新しい取組というわけではないんですよということをお伝えさせてもらいます。学校におけるすべての活動の中で、将来を考えるきっかけにするという意識をもって取り組むことが、子どもたちのキャリア発達を促すために大切になります。

また、学校の教育活動だけでなくて、保護者の方や家庭、地域の方々と連携をすることも、キャリア教育を充実させていく上では大切な要因になります。

続いてその辺を少し説明させていただきます。学校と地域、それぞれが今別れている状態ですけれども、まず学校としては、学校で取り組んでいることや、こういう子どもたちを育てようとしてますよ、という発信を、すでにやられている学校も多いかなと思うんですけども行います。そのような発信を受けて、家庭の中でも子どもをこう育て、学校と一緒にこう育てていったらいいんだなとか、学校でこういう取組しているから家でもやってみようかなということで、共に育てていくという姿勢がついてほしいなと思っております。

また、地域、家庭からも、例えば中学校が行っている職場体験学習という、これもキャリア教育の一つなんですけれども、地域でこういうところがあって、ここで受け入れるよということによって、地域の大人との関わりや、大学生による学生支援ボランティア等をとおして、子どもたちは身近な社会人モデルとしての地域の大人の姿を見ることができ、ここでつながりというのが生まれるんじゃないかなと思っております。

子どもたちを育てるときに学校だけでやる、また、家庭だけでするのではなく、学校という場を通して、学校の教育の内容を通して、地域社会全体とつながる学校、これが子どもたちのキャリア発達を促す意味でも非常に重要だと思っておりまして、この家庭、地域との連携も非常に重要なものと思っております。学校を中心として地域全体で子どもたちを育む、先ほどのお話の中でも、こういう意見も出ておりましたけれども、やはりこの大切さ、重要性を感じておるところです。

では、ここでキャリア教育という話がポンと出てきましたけれども、門真市ではこれまでやっていなかったのかといいますと、実はそうではなくて、小学校、特に中学校の方では積極的に行われている部分もあると思うんですけれども、これは一例ですが、職業体験やゲストティーチャーを招いての職業講話、小学校、

中学校の子どもたちが合同によるあいさつ運動や、また、日々の授業での話し合い活動等にも、課題解決の面とかも含めて、キャリア発達を促すことに役立っていると言えます。

これまで一応門真市としてもキャリア教育というのは取り組んできているところなんですけれども、やはり先ほどからお伝えさせてもらっているように、課題がこれによって解消されたという現状ではありません。ただ、やはり門真の子どもたちをどう育てていきたいか、今何が必要かと考えたときに、このキャリア教育というのを進めていくということが、すぐにぱっと効果は出ないとしても重要なんじゃないかなと思って、改めてこの取組を充実させていくという意味で、今お話をさせていただいております。

子どもたちが自分で将来を切り拓く力を身に付けたり、主体的に物事に関われたり、自己実現というのに向けてこれからもキャリア教育を基盤とした教育活動を実施していく、これが非常に大切だと改めて感じております。

このキャリア教育の効果を高めるために、先ほど地域との関わりという話もさせていただきましたけれども、もう１点、小学校、中学校間の連携、小中一貫教育というものが非常に重要になってくると思います。

続いてはこのキャリア教育と小中一貫教育の重要さ、こちらを説明させていただきます。キャリア教育で育成すべき能力というのは、各学年や小学校のみ、中学校のみで完結するものではなくて、生涯にわたって発達するものであり、キャリア教育を実践するうえでは前後の学校間での連携が重要であると思っております。

例えば、各学校間でそれぞれそこで完結してしまうというようなイメージを絵で示させてもらいますと、幼稚園、保育園、こども園ではこういうふうにしたいなと思っているものが、小学校に行ったらまた目標が変わっていたりとか、実際にキャリアに関する取組を事前にやっていてもまた同じことをやっていて、そこで発展が促されずぶつ切りになっていたりといった可能性があって、キャリア教育をやっても効果が十分に発揮できない可能性があります。

しかしながら、ここに一貫教育の視点を取り入れることで、子どもが中学校卒業後、またその10年後20年後、どうなってほしいか、そこを意識して、連続性を大切にして指導していくことによって、キャリア教育の効果がより高くなると思われます。

今、小中の一貫教育と言わせてもらっているんですけれども、先ほどの話にもありましたように、やはり就学前から、０歳から15歳までという教育振興基本計画の目標にありますように、就学前からどういうふうに連携していくか、ということも非常に大事な要素かなと思っております。その際ですね、小学校に視点を移したときに、多くの子どもたちが進学していく中学校区単位として考えるこ

とで、情報の共有がしやすいというふうに考えております。この中学校区を基盤としたキャリア教育と小中一貫教育を進めることが大事かなと考えております。

また堅苦しい話になるんですけれども、新しい学習指導要領においても、小学校、中学校、高校と、小学校１年生から高校３年生卒業するまでずっと、キャリア教育の活動というのを記録し蓄積していくことで、高校３年の時に小学校１年の時にこんなん思っててんなとか、こういうときはこう思っててんな、自分のキャリア発達はこうしてきたんだなというふうな蓄積をする活動が大切だといわれております。キャリア教育というのはその一回限りの取組で終わるのではなく、学期や学年、学校を越えて積み重ねていくことが大切になります。さらにこれまでの学習した内容が、例えば１年生で学習した内容が、２年生のどこの部分につながっているのか、以前やったことがここにつながっているなという発見、また、意識させることが大切な視点であることから、これまでの学びをどのような学びをしてきたのか、それを学年間、またさらには学校間でしっかりと共有していくことが子どもたちのキャリア発達を促すために重要になってきます。

ここで小中一貫教育についても、門真市としてはこれまでどういうことをしてきたのですかと、話の中でも小中一貫、小中一貫と出てきておりますし、第１回目でも少しお話が出てきましたが、子どもたちの確かな学力や豊かな心等を育むためには、義務教育９年間、欲を言えばその前の就学前のところからずっと見通したきめ細やかな学習指導や生徒指導が必要であるという観点から、門真市においても取組が進められてきました。

平成19年度には小中一貫教育プランを策定して、その後、平成21年度には市教委主催である小中一貫教育課程等研究委員会を立ち上げ、また、中学校区を単位として小中一貫教育推進協議会、こちらは中学校区主導で行うものと、市教委主催が主催するもの、それぞれあるんですけれども、一貫教育の推進を行ってきたところであります。その後研修会等を実施しながら、一貫教育の取組の充実に努めてきました。現在では、各中学校区ごとにおいて、それぞれの課題に応じた取組を進めていただいているところであります。平成28年度からは少しキャリア教育の方に目を向けて、めざす子ども像検討委員会という名称に変更し、中学校区のキャリア教育全体指導計画というものを作成しているところであります。

このように取組を進めてきた成果としましては、各中学校区での合同研究会や研修会の実施によって、小中学校の先生方の間の中での子どもに対する相互理解、それぞれの学校文化に対する相互理解や、やはり小中が協力して指導に当たっていくという意識の向上が見られるようになりました。また小中学校間での学習規律や生活規律の共有等も図れるようになってきたと聞いております。そのほかにも小学校６年生の児童が小学校卒業前に実際に中学校に行って、クラブ活動を見学したり、そこの生徒の話を聞いたり、授業体験をしたりする活動

を通して、中学校進学時の不安が少し解消されたという声も聞いております。

一方で、お示しさせていただいているような課題も正直あるところです。例えば、学校間での行事予定の調節とか、連携するにあたっての教員の学校間の移動、また子どもが移動する時間等の確保の問題、打ち合わせをしたいとしてもなかなか時間的に難しいだとか、一貫教育の中で大事な視点になる９年間の系統性を意識したカリキュラムの作成等がまだまだ進んでない状況があるかなと思っております。

また、中学校の進路指導等についても小学校の教職員の中に中学校がいったいどういう進路指導をしているか、チャレンジテストの内容がどうか、成績の付け方がどうかといったところの理解もさらに今後深めていく必要があると思っております。現在、各中学校区において小中一貫教育の取組を進めているところではありますけれども、これらの課題をいかに解決していくか、解決する方法を模索し、中学校区での連携をさらに深めることで、より効果のある一貫教育が実施できるものと考えております。また、その中にも先ほどお話のあったように、さらにその前、小学校、中学校の前の教育とどう関連付けていくのか、そこについてもしっかり整理していくことで、門真の子どもたちのためになっていくのではないでしょうか。

ここまでキャリア教育と小中一貫教育についてお話を進めさせていただきましたけれども、先ほどの一貫教育の課題も解消しながら、キャリア教育を基盤とした小中一貫教育を推進していくことで、期待されることを少し説明させていただきます。

小学校、中学校がこれまで以上にこの連携が深まり、小中学生の交流がもっと盛んになれば、例えば小学生が中学生を見る機会が増えて、中学生ってすごいな、あんなふうになりたいなと、中学生は一番自分の身近なよき先輩としてみることができます。自分の身近な将来の姿として、キャリア発達を促すことが可能になるんではないでしょうか。

また、中学生も小学生と接することで、やはり小学生からそのようにみられることで、また、先輩として頼りにされて、頑張らないとという思いから、課題である自尊感情や自己肯定感が高まることも期待されます。また、小学校でも６年生が１年生と接する際にすごく優しく接している姿なんかも私自身目にしたんですけれども、思いやりや助け合いの気持ちというものも育まれるんじゃないかなと期待しています。

ここは小学校、中学校の関わりですけれども、先ほどキャリア教育の説明の時に、地域との関わりも入れさせていただきましたけれども、やはりここに地域との連携や交流、これを入れることによって、さらに子どもたちのキャリア発達を促すことが可能になるんじゃないでしょうか。地域の大人に対して、あんなふう

になりたい、あんなふうに頑張っている地域の人もいるんだな、こういうふうに育ちたいなということを見ることによって、地域の大人に対しての憧れの気持ちを持つことになるんではないでしょうか。学校というのは地域の中心にあるものだと思っておりますし、もちろん学校が一生懸命頑張るのは当たり前のところなんですけれども、地域のみんなで子どもたちを育てていく、今、お話しいただいた内容のような姿勢が大切なのではないでしょうか。このようなつながりがしっかりできれば、縦のつながりや横のつながりなど、多様な人間関係の構築を通して、学び合える学校環境というのが出来上がり、門真の子どもたちの課題解消につながる一つの手段にはなるんではないでしょうか。

最後にキャリア教育を基盤とした一貫教育の推進によって、門真の子どもたちがどのように変容していくか、こうなってほしいなという思いを込めて最後説明させていただきます。

今、画面に出ている五つの丸は、課題を少しピックアップしたものになります。例えば、何のために勉強するのかな、勉強する必要ないやんと思っている子や、学校行っても意味ないしなとか、夢といわれても特に選ぶものもないしな、どうせやっても無理やわと最初からあきらめてしまう子どもや、自分にいいところもないしなと思っている子どもたち、ここに先ほどからのキャリア教育を基盤とした一貫教育を推進することによって、例えば、学習に意味が見いだせなかった子どもたちは、将来に対してのビジョンというのを見ることができ、そのためには勉強する必要があるなとか、勉強の目的ってこういうところにあるんだなということで、こんなふうになりたいな、だから勉強が必要だという気持ちに変容してほしいなと。

また、上とつながるんですけれども、将来のことを考えたら、やっぱり学校に行って勉強する、また、友達と関わることによって社会性を身に付けていく、そういうことが必要なんじゃないかなと、学校に足が向きにくい子どもたちの登校意欲も沸き、これがすべてではないと思うんですけれども、不登校問題の解消の一つの要素になり得る可能性もあります。このように学習意欲が向上したり、登校意欲が向上したりするという効果が期待できるのではないでしょうか。

また、将来のビジョンがなかなか見えない子どもたちにも、様々な選択肢を示すことで、すぐにこういうふうになりたいという目標を決められる子は少ないかもしれませんけれども、たくさんの選択肢の中から選ぶ、自分にあったものは何かと選べることもできるんではないでしょうか。こうすることで将来の夢を探し出す一つの手がかりになると感じております。

また、将来の夢に向かっては、自分であきらめない気持ちとか、最後までがんばろうという気持ちを持つことも大事だと学んでくれることによって、継続力や、いろんなことに挑戦してみよう、最初から無理だと諦めずに様々なことに取

組んでみようというチャレンジ精神、こういうものも身についてくれることを期待しています。

また、自分にいいところもないしなと、自尊感情が低かった子どもたちも、自分の良さに気づいたり、様々な選択肢がある中で、自分もこんなふうになりたいなとか、自分も必要とされる存在になりたいなという思いから、自尊感情の向上も図れるものとして期待しております。

また、これらすべてのことにおいて、最終的には自分でこうしたい、自分としてこう頑張りたい、自分で頑張るんだと自分から発信する、主体性が育まれることも期待しております。すべてこのようにうまくいけばいいなという思いであるんですけれども、本当にこのようになってほしいという思いをもって、今後キャリア教育を基盤に、一貫教育を推進していきたいと考えております。

最後に少し文章で長くなっておりますけれども、これまでの内容をまとめさせていただきますと、門真の子どもたちの課題を解決し、子どもたちの夢と幸せを育んでいくためには、現在も行っているキャリア教育をさらに充実させることが必要であると思っております。そのためには、中学校卒業後の子どもたちがその10年後、20年後、どう育ってほしいかというビジョンや、義務教育９年間の連続性や継続性を意識した、一貫教育の視点をもって、教職員が子どもたちを指導していくことが必要であります。門真市はこれまで中学校区で一貫教育に取り組んできております。その一貫教育で取り組んでいる中身をもう一度しっかりと見直し、また、できている組織の強みをいかして、子どもたちの夢と幸せを育むために、キャリア教育を基盤とした、小中一貫教育を推進していきたいと考えております。以上です。

会長

みなさん、ご都合はいかかですか。もうちょっと議論しても構いませんか。大丈夫ですか。

じゃあ、先ほど門真市の教育現状について、いろんなご意見出していただいて、そういう中で、先生からつながりだという話がありましたし、それから先生からは生きる力だというようなこともご提案があったと思います。そういうものを踏まえながら、これから門真市の教育をどういうふうに、どういう方向に向けて実現していくのか、創りあげていくのかというようなことがこれからの課題になっております。

ちょっと進行のミスでその課題と大切なものの間に実は先ほどご説明いただいた、教育の基本的な在り方について、門真市の教育振興基本計画とか魅力ある教育づくり審議会の答申というのがあって、おそらくこれがその課題とこのキャリア教育をつなぐ基本的な方向性を示したものだと思っておりますが、ちょ

っとこれの議論が足りてなかったので、基本理念のところだけ申し上げると、子どもの夢と幸せをみんなではぐくむ、次にいくと基本目標として、０歳から15年一貫教育で子どもの夢と幸せを育む、それから基本目標の２は多様な学びの機会を実現する充実した教育環境をつくる、それから３番目は子どもを真ん中に学校、家庭、地域、行政がつながる、これが基本目標として掲げられていて、その一つの具体的な実現方策として、今ご説明いただいた門真市の教育に大切なものということでキャリア教育、あるいはそれをうまく進めるための小中一貫教育というのが効果的ではないかというご提言がございました。

これについていきなり意見をお願いしますっていうのが、この場の趣旨なんですが、突然はちょっと大変そうなので、まず専門家の先生方に少し、課題から基本目標それから具体的な方策という流れについて少しご意見いただけませんでしょうか。

委員

ちょっとお聞きしたいんですが、小中一貫教育というのとキャリア教育というのは多分どちらも方法の問題であって、なんとなくキャリア教育を基盤にした小中一貫教育というのは僕の中ではしっくりこないんです。というのは、先ほどのお話にあったみたいに、小中一貫教育の狙いというのはいろいろあるでしょうけれども、人とのつながりを縦に伸ばしたりとか横に伸ばしたりしていくものも小中一貫の狙いではないかなと思うんですね。

キャリア教育というのは、一言で言うと自立の教育だと思うんですよね。職業的にもそうだし、自分一人一人がどう自立していくのかということをしっかりしていく、門真の一人一人の子どもたちの自立をめざした教育がキャリア教育ですよね。そうすると、キャリア教育を基盤にして一貫教育となると、自立を基盤にして人とのつながりを作る、と読めてしまってしっくりこないんですが、この辺の関係っていうのは、並列でもいいんじゃないかなと思うんですけど、やっぱりキャリア教育は基盤なんでしょうか。

事務局

教育部長の満永です。両方とも方法論ですよね。当然並行して行うものだと思っているのですが、我々は、これまでずっとキャリア教育を進めてきました。ただ、たとえば小学校１年生でやっている教育活動がキャリア発達の中のどこに位置付いているのかとか、それが２・３年生のどのような教育活動につながるのかとかいうことをはっきりと意識して取り組めていたかという反省があります。キャリア教育は連続性をもったものとしてやっていかなければならないし、すべての教育活動の根本に、自立というものをめざしたキャリア教育を置きたい。

そして、小学校１・２年生の段階で自己肯定感をしっかりつけていきたいとか、３・４年生で人間関係形成力を、小学校高学年でモデルとなる人間像を獲得するといったように、段階的・連続的に教育活動を積み上げていきたいという思いがありまして、すべての教育活動の中にキャリア教育を基盤とすると言っております。さらに就学前の段階から小学校・中学校修了まで、一貫して系統的に育てていきたいという思いが、キャリア教育を基盤とした一貫教育といった表現になったわけです。もし、違った表現の方がいいんじゃないかなというご提言がございましたらお願いをしたいと思います。以上です。

委員

例えば、人とのつながりを活かして自立をめざす、というような教育というのはどうかなと思うんですけども。並行ではあるんですけども、みなさんさっきのお話しあったみたいに結局人とのつながりを大事にしたいというのは共通認識としてあると思うんですよね。でもその先にあるのは、一人一人の子どもの自立ではないかなと思うので、そっちのほうが私自身としてはすっきりとするのですけども。こうしてくださいというわけではありませんが。

事務局

そのあたりも含めてご議論いただければ非常にありがたいことであります。

我々としては学校での教育活動の中にキャリア教育は基盤として置いておきたいと思っています。キャリア発達のことを意識して、各学年での教育課程のこの部分はどこにどう位置付いているのかということをきちんと意識しながら、就学前から中学校修了まで、系統的に育てていけるような教育内容を創っていきたいという思いがございます。

会長

いかがでしょうか。

委員

門真市の教育に大切なものをずっとスライドを見ながら説明いただいて、骨子の考えようとされている部分は私も考えているところです。言葉では同じだと思うんですが、少し気になったとこは、小中一貫校を核にして、学校を核にして地域と連携とおっしゃった部分で、私は少し違うんじゃないかというのはね、ここに地域と連携、交流と書かれたんですけども、これっていつでもどこでも言っていることで、さっきの門真市の創造って言ったときに、私は地域と共に暮らすっていうのか、共に生きるというか、連携じゃなくともに生き合うというのか、

学校というものを核にしてその周囲のいわゆる中学校区を求めようとしてるのだと思うけど、そういう人々とともに生きる地域づくりというか、こういうことじゃないかと思っているんです。

それが、自尊感情とかいろいろ地域の方々と一緒に生きながらいろんな人を見たり、いろんな人から認めてもらったり、学校の先生から認めてもらわなくても地域のおっちゃんに認めてもらったり、自分がそこで生きようという力というのがでてくる。さっきのキャリア教育で書かれていた部分がでるんだけどそれは学校だけでするんじゃないとか、前半でずっと話が出ていたように、地域づくりというのかな、そういうもっと対等というのか、もっと入り込んでくるというか、人間関係が多様な人々、地域の人々で地域をつくるというか、そういうニュアンス、その辺で少し違和感がありました。

地域の連携、交流とかあの図を描かれたら、今まで学校教育はずっと言ってることで、一歩踏み込んでないんじゃない、地域の人達ももっと踏み込む、学校も地域に踏み込むみたいな、もうちょっと何かいいスローガンがあれば新しい創造にならないかなということ。前半の話も受けてちょっと思いました。

副会長

今の門真市の説明を聞きながら、うちの学生のことを考えていました。４年生の学生は、教員をめざしている者も含めて就職に向けてがむしゃらに取り組んでいる学生もいれば、目標を見失って悩んでいる学生もいます。

彼らの話を聞く中で、決して自分は経済的に恵まれてなかったけども、時には親、時には地域の人、学校の先生、いろんな人との関わりの中でサポートしてもらってきた。その中で、最初は自分の夢だったけども、夢じゃなくなったと。いろんな人のサポートを受けて、就きたい職業に絶対就くんだ、という気持ちになって、彼らは今がむしゃらに頑張っています。

そのことを考えた時に、社会的自立、職業的自立などありますけども、やっぱり、今議論になっているように、周りとのつながり、関わりの中で自立するということが育まれてくるんだなということを実感しています。そのことをおそらくキャリア形成とおっしゃっていると思うんですけどね。

今日の前半、お話をお聞きしていて、例えばＰＴＡ活動、自治会活動に積極的に参加する人が減っているということですが、まさにそうで、高校生に「社会参画について考えているか」というアンケートをとっても、日本の高校生は、アメリカ、韓国、中国など諸外国に比べて非常に低いんです。

もう一つは説明にもありましたが自尊感情。「あなたはダメな人間だと思いますか」というアンケートで70％以上がダメやと思っているという自尊感情のなさが諸外国に比べて出ています。なぜそうなってきたのか。日本独特の謙虚さを

差し引いてもポイントとしては高いと思うんです。

先ほどのキャリア教育の中で、言葉は確かにキャリア教育という言葉を使っておられましたけども、地域と学校と家庭とみんなで子どもを真ん中においてという目標に書かれていますが、いろんな取組、学びの蓄積をしていくことが大事だという中で、そのあたりをキャリア教育と呼んでおられるのかなと思って、私は今日の話については、言葉や表現は変えてもいいと思いますが、全体のストーリーとしては、ストンとおちています。

今、国ではそのいろんな蓄積を大事にするために、キャリアノートなどでポートフォリオ的に小学校の頃から積み重ねた記録を置いといて、その記録をもとに振り返りをして、振り返ったことから次の見通しを立てるといったような繰り返しの取り組みを推奨しています。例えば先ほど清掃活動の話がありましたが、そんな取組をしたときに、子どもに今日はどうやったとか、普段のお父さんとは違う姿をみたよとか、そういった話からスタートして、自分はどう思うかみたいな、一回の何かの取組でというのではなくて、ちょっとずつの繰り返しの結果かなと思います。ちょっとした親の捉え直しだったり、地域のおっちゃんに声掛けてもらった時の気持ちやあんなおっちゃんになりたいといった、いわゆる斜めの関係だったり、いっぱいの繰り返しの中で、キャリア形成ってしていくものやろなと、改めて話を聞かせてもらいました。

そういう理解の上で、ただ、資料では小中一貫教育という中で、お互いの理解が進んだとか中１ギャップが緩和されたとか、成果のところに書かれていましたけども、先ほど会長からは小1プロブレムという話がありましたし、もっというと大阪府では、35人から40人になる小３ギャップもあるかもしれませんし、４年生くらいになると学習内容がぐっと増えてきて、そこでつまずくとずっとついていけなくなる小４ビハインドといった問題はないかなど、そういうことをずっと蓄積の間で、積み残しの課題をもっている子が居たとしたら、一番表れとして出やすいのは高１です。高１クライシスと呼んでいます。高１の中退、高校入ったけども、思っていたのと違うと退学してしまうというのが、ちょっと前まで問題になっていました。そう意味でキャリア教育を考えた時に、幼少中、もっというと高校まで含めて、その子の育ちをどのように見ていくかというのは大事ですから、我々は、連携というところからなかなか越えられないですけども、本人に自分の育ちを振り返させるキャリアノートのようなものを持って、自分自身が引き継いでいくような取組ができたらいいのかなと思いました。

そういう意味では小中一貫という手法を採ると、職員間の時間がなかなか取れないとか物理的な距離といった課題のいくつかは解決するんじゃないかなという感じがしました。

その辺りは、私も現場での実践が薄いので、また次回見学の予定もあるようで

すので、生の話を聞ければいいかなと思いました。

会長

学識グループからは、押しなべて言葉はもう少し検討の余地があるということだと思うのですが、手法を目標に据えるのは問題ではないかとか、やっぱり生きる力とか地域とともに生き合う関係をどう創るのかというのが重要な時に、ちょっと表層的な言葉ということだと思うのですけれども。だから、言葉を変えればいいということではなくて中身についても議論していく必要があるような気がしますが、酒が飲めて挨拶ができればよくて、学ぶことは関係ないといった意見は、これと対極にあるような内容だと思います。

委員

門真は日本一良い庶民の町でありますので、門真をこよなく愛する男としては、私の信念でいったほうがいいのではないかなと思いますが、勉強やりたい人はしてもらって、嫌いな人はとりあえず学校で給食食べて、先生方と遊んで、なんとか９年間は学校へ行って友達と遊んでほしいですね。会長さん副会長さんみたいな人ばかりでは世の中成り立ちませんからね。私みたいな人がたくさんいて、元気のある門真を構築したいと思っております。私の最も思うところは、勉強なんかできなくていいじゃないか、子どもにも孫にもおじいちゃんの背中を見てついて来いと言いたいだけです。以上です。

副会長

本当にその通りだと思うんですよ。なんというか、勉強より大事なものってあるじゃないかっていうメッセージはすごく伝わってきますし、ほんとその通りだと思うのですけれども、一点だけ、そういう人生を歩いてきた先輩方のその言葉を逆手にとって勉強から逃避する子どもを育てないようにどうするかということです。どのような理由つけでも逃げようとするような子どもたちをどうしていくのかというのが課題になってくるのかなと思っています。どうしたらいいのでしょうか。

委員

掛け算とか九九ができてお釣りの計算が、ぱっとできたらいいと思うんですけれどもね。

委員

ものを作ったりするでしょ。種がなんぼで、育てるのに何人何日かかったと、そして一生懸命育てたものをなんぼで売ったら儲かるかと子どもに聞くわけで

す。そうしたら、算数の苦手な子が一生懸命頑張ることがあるんですよ本当に。これも教育の一環かと思たことはあります。そして、門真は緑が少ないので緑を多くして、理科の授業になったら虫とか、それも教育の一環。虫が好きな子がいて昆虫学者になったもんね。ほかの勉強はダメだったけどそれだけで大学まで行った子がいるもん。それを、学力の低下とみてもらったら困るけども・・・・。と僕は思うんですよ。

会長

キャリア教育って捉え方がずいぶん違うような気がするんですが。おそらく学校先生方と地域の方、それからＰＴＡの方、少し捉え方が違うと思うんですが、どう理解されたかという話を。

委員

すみません。先ほど副会長のほうから出た話のなかで、キャリアノートという話が出てきたのですが、我々は知っているのですが、地域の方はわからないと思うのです。

従来、我々はキャリア教育をやってきたつもりなのですけど、今後、どういう動きになるかということで、キャリアノートというものが出てきているのです。それは、小学校1年から積み重ねのものをファイルにして、中学・高校とつなげていこうという話が今出てきているのです。それをもって、自分自身を振り返ることができるであろうという話があるのです。振り返ることによって自分の成長というのがわかるであろうし、その中には多分いろいろな人とのつながりがあって、こういう自分が成長してきたのだなということを見ることができるというふうな話のものがキャリアノートというものです。すみません補足です。

会長

では、学校としては、キャリア教育は全面的にＯＫで、ここに書かれているような趣旨で進めていきたいということでしょうか。

委員

資料の７ページに、これまでのキャリア教育の取り組み例というふうに先ほど10個ちょっと挙げてもらっていますけれど、こういうのはどこの学校でもやっていると思うのです。これが子どもたちにどう落ちていているのかなというとこらへんは気になりますけれども、将来自分がどんな大人になりたいか、10年後20年後どうなっていたいのかをイメージさせつつ、教科の授業とかいろいろな行事の取組とかで、生きる力、自立できる力をつけてやるというのが学校の果

たす役割なのかなと思います。
　余談になりますけど、昨日、かつて担任した学年の男の子四人と食事に行きました。そのうちの一人は中学の時から消防士になりたいと言っていたんです。それはなぜかというと同じ中学校の保護者の方が消防士をされていて、その人にずっと憧れていて、今、消防士をしているのですけれども、その子の話を聞いていて、やはり目標があるというのは大事だなと思いました。
　仕事をしてみてどうだと聞いてみたら、大変だと。今ではだいぶん慣れてきて、いろいろなことを経験積みながらやっていると。自分自身は門真で育ててもらって、門真で仕事をさせてもらうことは誇りに思うということを言っていました。
　後の三人もそれぞれの人生を歩んで頑張っているのですけど、一人の子は父親のお店を中二の頃から継ぐのだと言っていて、今も実際に調理場に立っているんです。
　そういうふうに話していて中学校で彼らにどこまで影響を与えられたのかなと振り返ると、よくわからない部分もあるのですけれども、やはりどの子も言っていたのは、勉強はしないといけないと思うと。消防士になるにも学科試験があるし、体力テストがあるので体を鍛えないといけないと。今は勉強の大切さがよくわかりますと言っていました。それぞれの人生があって、それぞれの将来の目標があって、必ず実現できるとは限りませんが、いろいろなキャリア形成があるのだなと、昨日あらためて実感しました。中学校は楽しかったと言ってくれたのでそれは嬉しかったですね。

会長
　個人が意識的にキャリアを設定して、そこに向かって努力して、学校もそれに寄与していたということですね。
　いかがですか、キャリアモデルというような話がありましたけれど。

委員
　キャリア教育と聞いて、ハイレベルな勉強ぐらいにしか思っていなかったのですが、こうして文字にしてもらって私が思ったのは、息子たちは守口の学校に行っていたのですが、その時に担任してもらった先生が暴れん坊の子に注意ばかりするのではなくて、力が強いからと、荷物運ぶのを手伝ってくれたことを褒めてあげたり、勉強ができないけど絵を描くことが得意な子にはクラスのために絵を描いたりすることを任せたら、とても絵に興味を持ち出して美術大学に行ったんです。
　そういった生徒への先生の関わり方、そういったところから自立といいます

か、小学校や中学校からみんなが将来に向けての夢があるわけではないけれど、ちょっとした先生との関わりなどから本人が気づいて、将来の選択肢が広がるようなキャリア教育のなかの一つにあってもいいのかなあと思いました。小中一貫に関しては、小学校から中学校になるときに、子どもも保護者も中学校はどんなところかわからないところがある。それこそ昔のイメージだけで中学校は悪いかもという。今は悪くなくなってきているのはあるけれども、保護者の子どもだった頃のイメージで公立中学校は悪いと思って、私立の中学校にと考える親もいるみたいなので、もっと小学校と中学校をもう少し、例えば、小学校の親が中学校の参観を観に行けたりしたら、私立ではなく地元の学校に行こうと思う保護者も増えてくるのかなと思います。

会長

前半の、子どもたち一人ひとりが持っている個性だとか能力を学校の中でどうやって伸ばしていくのかって、キャリア教育って聞くと一般的に職業教育みたいなイメージがあるのですけれども、そういう中で個性や能力を一人ひとりの違いを伸ばしながら生きるちからをどう身につけていくかというあたりが、このキャリア教育の根幹であるというご指摘であったような気がするのですが。

他にいかがでしょうか。キャリア教育についてでも、小中一貫についてでも。

委員

はすはな中学校のサタスタで、受験前だけ放課後支援ではないですけれども、学習の機会をということで、図書室で勉強をすることの立会いをさせていただいていたときなのですが、今のお話にありました、キャリア教育を学校で進めてこられたからなのかなと感じる経験がありました。

会長

意外にと言っては恐縮ですが、キャリア教育にわりと肯定的な意見でした。いろいろな面白い事例を紹介いただけて、可能性あるかなという気がしますけれどもいかがですか。

委員

やはり教育の方法論の一つにキャリア教育はある。でも、人間形成の方法論の一つにキャリア教育があるけれど、それをスローガンにするには少し不足というか、私としては、方法論についてはおっしゃった通りで、自己実現するためには、大人になった自分が、自分の成育歴を振り返りながら自分を考える機会って

必要になってきて自己実現していくケースがいっぱいあるから、方法論は大事なのだけど、方法論で地域や学校を創ろうというのには、ここで話している厚みと言葉が違うかなというふうに思っているのです。

どうしても、P14に書いていることを書けば、何か一つめざす職業を決めなければならないとかという話になるので、自分がどう生きたいのかということをもっとしっかりと考えさせることが大事なところだと思うので、ちょっといかがでしょうと思っているのです。

事務局

我々は今までのキャリア教育が、むしろ職業を考えるキャリア教育になっていたのではないかという反省があります。だから違うと言いたいのです。門真の子に自尊感情を持ってほしい。そして、自己有用感、もっと言えば、ばねのようにギュッと縮められても跳ね返していく力とか、そういう人間として大切なものを、子どもの周りの人たちがよってたかって、地域との連携という言い方はやっぱりちょっと冷たいかな。学校の先生も地域の人たちや大学生とかも呼んで、様々な立場の人がよってたかって門真の子を支え、生き様を見せてくれたらいいのかなと思っています。その中心になるのが学校だと思ってくれたらいい。地域の方々には面白い方はいっぱいいます。委員さんとか委員さんとかみたいな人を見て、その背中を見てあんなふうになりたいとか、さっきの校長の話にあったように、消防士になりたいと、誰かの背中を見て、そして、あんなふうになりたいなというような思いを持つ。子どもが良き大人のモデルと出会い、触発されて頑張る、そして、学びのモチベーションを持ち、それが将来の自立につながると思うのです。

でも、自分の将来を考えられないと思ってしまう子が門真には少なくありません。私の教え子で、小学校５年生で自分はどうでもいいと言った子もいました。担任の時に、この子に生きるちからつけるにはどうしようかなと、悩んで最終的に運転免許を取る力だなと思い、教習所で標識の本をもらって、その標識の勉強をやった経験もあります。今彼はプロの運転手です。何度も何度も落ちてもあきらめず、免許を取りました。

こうした経験からも、粘り強い子どもに育ってほしいし、そのためには何が大事かということをしっかり考える教職員をつくらなければなりません。そして、それは小学校で完結してはいけない。中学校・高校と頑張りきろうという子どもを就学前から教職員も思いをひとつにして連携して、時間軸という縦のつながりで子どもたちを育てていかないといけない。また、教育というのは教師の専売特許ではありません。地域にはいろいろな人がいます。地域には様々な人材が、面白い人がいます。そのような人とのつながり、言わば空間としての横の広がり

も創りたいのです。

時間という縦のつながり、空間という横のつながりの中で、子どもたちを系統的に育てていくということがキャリア教育を行う上で大事だと思います。いろいろな人が学校に来て、よってたかって、学校という場を中心にして、子どもにが自分を大切な存在だと思えるように、おっちゃんも一緒に歩いたるわ、先生も一緒に歩いたるわ、といった門真の教育を創りたい、その基盤としてキャリア教育があるのだと考えており、職業について考えるだけのものではなく、もっと大きなものとしてキャリア教育を考えています。

つまり、こんな職業に就きたいということを目的とするのではなく、自立を目指し、しっかりと生きていくためのキャリア教育を創りたい、それを地域の人とか中学校・小学校、子どもの周りの人間でよってたかってみんなで創りたい。そういったキャリア教育を事務局のなかで話しているということだけは、ここで少し言わせていただきました。

会長

そういう意味ではキャリア教育という言葉以上の大きな可能性を持っているということなので、ひょっとしたら中身は今の趣旨のご説明で単純なキャリア教育ではないというのは分かりましたので、それだったらキャリア教育という呼び方も変えていいのかなという気がしました。

門真の言葉で人と人の繋がりのなかで一人一人が育っていくという、それを何か言葉として。またそれは、次の課題というか、最終的にそれが決まればいいと思います。今日は頭が出てきただけなので自由にご議論いただいていいと思いますがいかがでしょうか。

ちょっと一つだけいいですか。言葉尻の問題かもしれませんが、育てたい子どもの姿という、その育てるという発想はやめたほうがいいのじゃないか、子どもは育つのだから、それをどう支援するかっていうのが教育の役割だと思っていますので、こういうスタンスはやめたほうがいいのじゃないかという気がします。

他いかがですか。

それでは、以上ではこれぐらいにして今日の議論は次につながるということで、ご理解いただきたいと思います。

それでは、案件５その他ということで説明があればお願いします。

事務局

次回、第３回の審議会は７月８日月曜日を予定しております。案件２でもお示

しさせていただきました通り、午前中に先進市に視察に行きたいと考えております。市役所へ戻ってきた後、午後２時からこの会議室にて審議会を開催したく存じますのでよろしくお願い致します。以上です。

会長

　では、ほかに何か話しておきたいことがありましたら、ご発言いただきたいと思います。すみません、ちょっと進行が下手くそで３時間になってしまいましたが、もう少し上手にやりたいと思います。次回は午前の部と午後の部と二回あって、午前中学校の見学に行って、午後からこの審議会ですね。ちょっとハードスケジュールですけれども、よろしくお願い致します。

　今日は、これで閉会にしたいと思います。ありがとうございました。